

# 教育委員会議事録

令和5年7月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録  
(令和5年7月定例会)

- 1 日 付 令和5年7月21日(金)
- 2 場 所 海老名市役所401会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 平井 照江  
教育委員 濱田 望 教育委員 武井 哲也  
教育委員 海野 望
- 4 出席職員 理事(教育担当) 小宮 洋子 教育部長 中込 明宏  
教育部次長 江下 裕隆 教育部参事兼教育総務課長 西海 幸弘  
教育部参事兼就学支援課長兼指導主事 山田 圭 教育部専任参事兼教育支援課長兼指導主事 麻生 仁  
学び支援課長 松本 晃子 海老名市教科用図書採択資料作成委員会委員長 奥泉 憲
- 5 書 記 教育総務課総務係長 小林 亮介 教育総務課主査 郷原 貴子
- 6 開会時刻 午前10時00分
- 7 付議事件  
日程第1議案第27号 令和6年度使用教科用図書採択について
- 8 閉会時刻 午後4時00分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会7月定例会を開会いたします。

本日は、傍聴希望者は、会場の密集を避けるということで既に入場していただいております。傍聴者につきましては、教育委員会会議規則第19条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思いますと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、本会議の傍聴を許可します。

今会の署名委員は、平井委員、濱田委員にそれぞれよろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは早速、審議事項に入ります。

日程第1、議案第27号、令和6年度使用教科用図書採択についての審議を行います。

教育部長より提案理由の説明を求めます。

○教育部長 それでは、改めましておはようございます。よろしくお願いいたします。

お手元の資料1ページをご覧くださいと存じます。議案第27号、令和6年度使用教科用図書採択についてでございます。提案理由につきましては、令和6年度に使用する教科用図書について決定いただくものでございます。

資料2ページをご覧くださいと存じます。令和6年度使用教科用図書採択についてご説明申し上げます。本日は1から3の3点について審議をお願いいたします。

1点目は、令和6年度使用小学校教科用図書の採択でございます。これは、令和6年度から令和9年度までの4年間使用する下記掲載の種目の教科用図書を5ページの別紙1、小学校用教科書目録（令和6年度使用）に記載されている教科書のうちから、19ページの別紙2、令和6年度使用小学校用教科書海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書を参考といたしまして採択の議決を求めるものでございます。

2点目でございますが、令和6年度使用中学校教科用図書の採択でございます。これは令和5年度に一斉に採択替えを行ったもので、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は4年と定められていることから、現在使用しているものと同一の教科用図書を今年度に採択したいものでございます。なお、種目は記載のとおりでございます。資料39ページの別紙3になりますが、中学校用教科書目録（令和6年度使用）、資料47ページの別紙4、令和5年度使用中学校教科用図書一覧と資料49ページの別紙5、令和3年度使用中学校用教科書海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書を添付してございますので、

こちらにつきましては後ほどご覧いただきたく存じます。

3点目でございますが、令和6年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてでございます。学校教育法附則第9条及び同法施行規則第139条の規定により、特別支援学級で使用する教科用図書につきましては一般図書から採択することができるとなっております。また、1年間の採択期間で、1種目について複数の図書を採択することができることから、令和6年度の1年間使用する特別支援学級の教科用図書につきまして、資料73ページになりますが、別紙6、令和6年度用一般図書一覧から、児童生徒に応じて採択することとしたいものでございます。こちらにつきましては後ほどご覧いただきたく存じます。

なお、関係法令等の抜粋といたしまして、資料3ページに、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令、同法施行規則、資料4ページには学校教育法及び同法施行規則を抜粋してございますので、こちらも後ほどご覧いただきたく存じます。

それでは、専任参事兼教育支援課長より1件ごとに詳細をご説明申し上げます。よろしくご審議いただき、ご決定いただきますようお願い申し上げます。私の説明とさせていただきます。

**○教育支援課長** 1点目の令和6年度使用小学校教科用図書の採択についてご説明いたします。

5月の臨時教育委員会において、海老名市教科用図書採択基本方針として、令和6年度の小学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき、海老名市教育委員会が設置した海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を資料とし、種目ごと1種の教科用図書について海老名市教育委員会が採択すると承認されております。

また、海老名市教科用図書採択資料作成委員会では、令和6年度の小学校教科用図書は、神奈川県教育委員会が定める令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が設置した調査委員会の報告を受け、教科用図書の採択に必要な資料を取りまとめ、海老名市教育委員会へ報告すると承認されております。

以上の点を踏まえまして、5月16日と7月5日に行われました採択資料作成委員会の報告書につきましてご説明させていただきます。

お手元の令和6年度使用小学校教科書海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書

をご覧ください。この報告書は、採択資料作成委員会が全種目の小学校教科書を調査して作成したものでございます。この報告書には、海老名、大和、座間、綾瀬の4市の調査員が、1回目を6月1日、2回目を6月20日、3回目を6月26日に調査委員会を合計3回行い、その調査結果を採択資料作成委員会へ報告した内容を採択資料作成委員会において審議した結果がまとめられております。

なお、結果については、発行者を絞り込むことなく、それぞれの発行者について調査した結果でございます。また、市内全ての小学校へ教科書の見本本を1週間回覧し、学校からの意見を集約した結果も併せてまとめられております。学校意見の集約方法については、まず、学校において観点に沿って調査した後、学校意見表をまとめていただき、それを採択資料作成委員会委員長が委嘱した整理員が集計し、その結果を基に採択資料作成委員会において報告書に発行者ごとに記載いたしました。この採択資料作成委員会報告書に加え、文部科学省の教科書編修趣意書、県教育委員会の調査研究の結果を踏まえ、ご審議くださいますようお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 調査員は教科によって人数に違いはありますか。

○教育支援課長 発行者の数や教科書の点数によって調査員の数は調整いたしました。具体的に申し上げますと、国語・書写は、市から3名、音楽、図工、家庭、保健は市から1名、そのほかの教科は市から2名が調査員となりました。

○伊藤教育長 調査員ということで、教員がそれを担って調査をしたということでございます。

○濱田委員 今の説明の中に4市の調査委員会という部分があったのですが、海老名市から何人の現場の先生が調査委員会に調査員として携わったのか、教科書の調査をしたのか、教えていただければと思います。

○教育支援課長 本市の調査員は合計で19名となります。4市から合計76名の調査員が教科書を調査いたしました。

○武井委員 学校からの意見についてなのですが、観点に沿って調査したとありましたが、その観点についてご説明をお願いしたいと思います。

○教育支援課長 各種目ともに、神奈川県教科用図書採択方針に準じまして10個の観点を設定いたしました。そのうち6個は各種目に共通な観点でございます。例えば学習指

導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているかや、体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているかなどでございます。

次の3個につきましては種目別のものです。例えば国語であれば、語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているかなどでございます。最後の1つは、各校の児童の実態から見て適切かというものになっております。

○伊藤教育長 教員たちが学校に教科書が回る中で、そのような観点で審査というか、判断したということでございます。

ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ほかに質問がないようですので、1点目の審議に入ります。

審議の前に、発行者名の略称について確認させていただきます。皆さんも研究の中で光村とか略称で教科書と呼んでいましたけれども、それを再度確認させていただきます。発行者名は、別紙1、小学校教科用図書目録（令和6年度使用）の24ページに記載されております。24ページに記載されている教科書目録の順で、私、略称を申し上げますので、今後の審議の中では全て略称で進めるということをご了承ください。東京書籍株式会社は「東書」、大日本図書株式会社は「大日本」、開隆堂出版株式会社は「開隆堂」、学校図書株式会社は「学図」、株式会社三省堂は「三省堂」、教育出版株式会社は「教出」、一般社団法人信州教育出版社は「信教」、株式会社教育芸術社は「教芸」、光村図書出版株式会社は「光村」、株式会社帝国書院は「帝国」、株式会社大修館書店は「大修館」、株式会社新興出版社啓林館は「啓林館」、日本文教出版株式会社は「日文」、株式会社文教社は「文教社」、株式会社光文書院は「光文」、株式会社 Gakken は「学研」という略称で審議を進めますので、委員さん方、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 事務局もよろしく申し上げます。

それでは、採択の方法について確認させていただきます。開かれた採択を一層推進するという趣旨から、1点目の令和6年度使用小学校教科用図書の採択の方法は、種目ごとに皆さんで協議した後、私が教科書目録に記載されている順に略称で発行者名を申し上げますので、最も適していると判断するものについて挙手をしてください。多数決で採択を決定したいと思いますので、よろしく申し上げます。これについてご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よろしく申し上げます。

次に、採択資料作成委員会の調査結果については、海老名市教科用図書採択資料作成委員会、奥泉憲委員長に報告していただくことといたしますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、奥泉憲委員長、入室をお願いいたします。

奥泉委員長、報告書の作成、大変お疲れさまでした。奥泉委員長は、我々周知のとおり、海老名小学校の校長先生です。昨日まで、第1学期、本当にありがとうございました。子どもたちは今日から無事夏休みですが、委員長には今日また大きな仕事を果たしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、自己紹介をお願いいたします。

○奥泉委員長 今回、採択資料作成委員会の委員長を務めました奥泉憲です。よろしくをお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは奥泉委員長、1点目の令和6年度使用小学校教科用図書についての審議に入ります。

なお、発行者名の呼び方は、先ほど確認したとおり、略称で行いたと思います。

初めに、小学校教科用図書「国語」の審議に入ります。

採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いします。

○奥泉委員長 国語は、東書、教出、光村の3社です。お手元の海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書1ページをお開きください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、単元扉にて教材や学習活動への興味関心を引き出すために大きなイラスト・図版を示し、どのように学んでいくか見通しをもてるように『学習の流れ』が提示されている。文字の習得段階でつまずきやすい特殊音節や助詞については、特別支援教育の知見を生かした指導法「多層指導モデルMIM(ミム)」が取り入れられている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、全学年上下分冊になっており、持ち物の軽量化に配慮されている。また、新しい教科書との出会いが年に2度あり、児童の学習への期待を高めている。巻頭の『ひろがる言葉』では、SDGsと関連のある単元がマークによって分かりやすく示されており、

現代社会の問題を自らの課題として考えられる児童を育むことができるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、全ての単元において、『問いをもと』をきっかけとして学習が展開されており、児童自身の問いから目標へとつなげ、学習の見通しを明確にもてるように工夫されている。また、語彙力を豊かにするために、全教材を通して常に言葉に着目し、『言葉の宝箱』などで語句を増やしていくことで、日常生活に生かせるように配慮されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいま奥泉委員長から報告がありました。採択資料作成委員会の報告ということでございます。委員さんから質問あればお伺いいたします。

○濱田委員 委員長、大変お疲れさまでございました。ご報告ありがとうございます。

1点、ご質問なのですが、採択資料作成委員会で国語の教科書についてどのようなことが話題になったか。もしありましたら教えていただければと思います。

○奥泉委員長 児童が教科書と向き合えるように、どのようなことを学習するか、見通しを持たせる工夫があるという意見がありました。また、1年生については、スタートカリキュラムを意識したつくりとなっております。

○平井委員 東書に多層指導モデルミムとありますが、調査員から具体的な説明はありましたか。

○奥泉委員長 多層指導モデルミムとは、特別支援教育の知見を生かした指導法となっております。例えば特殊音節の仕組みや表記について記号による視覚化と手をたたいたり、握ったりする動作化を取り入れて理解しやすくなっているとの報告があります。具体的には、1年生で「猫」「根っこ」というような違いの学習をするのですが、「猫（手をたたきながら）」「根っこ（手をたたきながら）」という動作を入れながら指導をすると、子どもの理解が進むというようなことに取り組んでいます。

○海野委員 近年、児童の教科書の持ち帰りが話題になっているのですが、教科書の重量についての説明はありましたでしょうか。

○奥泉委員長 教科書会社によって、持ち帰りの軽量化を考慮して、上下分冊になっているという説明がありました。

○伊藤教育長 海野委員としては、保護者の立場から、やはり子どもたち、ランドセルに

いっぱい教科書を入れて持ち帰ったりしますので。

それでは、ほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、質問がないようですので、採択に向けての協議をこれからしていきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひいたします。皆さんにもご自宅に教科書を我々で配付させていただいて、3か月ほど見て、かなり研究されたと思っておりますが、今、改めて3社の教科書が目の前に並んでいるのですが、いかがですか。

○武井委員 それぞれの教科によって、写真で表現しているものとか、イラストで表現しているものがありまして、違いがすごく分かりやすくなっていました。説明文についてですが、実際の写真を取り入れたりとか、そういったものは子どもたちにとって学習しやすくなって、分かりやすいなということは感じました。

○伊藤教育長 武井委員から、国語なのですが、それぞれ写真やイラストということで、特に説明文は、写真のほうが直接子どもたちの理解の支援につながるのではないかなという意見でございます。

○海野委員 東書なのですが、児童の視点で見やすくまとまっていて、学習内容や学習の仕方などの見通しが持ちやすい構成になっているかと思っております。

○伊藤教育長 東書の教科書についてはそのような形で、先ほど奥泉委員長の報告にもあったように学習の進め方が分かりやすいような教科書のつくりになっているという意見でございます。

○平井委員 各社ともそれぞれに工夫がされていて、指導がしやすく、児童が理解しやすいつくりになっているなと思えました。長い間、教材として掲載されているものは教材としての価値が高いものではないかなと思えますし、会社の熱い思い、また、愛着等、現場で学ぶ子どもたち、教師にも支持されているものではないかなと思えますし、脈々と流れている教材については、やはりそれなりの教材としての価値が十分あるのではないかなと今回見させていただきました。特に光村の1年生は、最初の頃には文字を入れていません。幼保で培ってきた言葉の力や経験を生かした教材を入れて、子どもたち1人1人が自分の今までの経験や体験してきた場面を思い起こしながら言葉につなげていく。そういうものが最初の1年生で取り入れられているというのは、とてもいいことではないかなと思えます。

そして、国語学習では言葉を大切にする、その言葉を大事にするという点においては、

光村には巻末に「言葉の宝箱」というページを設けています。これは、私が今まで見てきても、子どもたちにとって非常にいい教材になっているなと思っています。特に言葉について学習を深め、広げていくという形はとても良いものではないかなと思っています。言葉の豊かさにもつながりますし、今、読書離れが広がっていますので、こういった言葉を広げていく中で国語に関心を持ち、読書にも関心を持っていくということであるならば、非常にこれは効果的ではないかなと思っています。

○伊藤教育長 平井委員は、ご承知のとおり、自ら教壇でこれまで教科書を使って指導してきた経験がありますので、そのようなことを今触れられたかなと思います。実を言うと、前回の教科書採択で国語をやったときにも、光村の「言葉の宝箱」。言葉を集集として扱っていることは非常に大事ではないかなということは、前回の採択のときにも意見としてあったところがございます。

平井委員が冒頭の部分で意見をおっしゃるときに、脈々とつながるというような言葉遣いをしたのですが、私も教員だったので、今でも子どもたちと懇親会をして、40年近く前の子どもたちがいるのですが、そのときに国語の教科書の話になったりして、先生、6年のとき、宮沢賢治をやりましたねとか、そういう話になります。中には子どもたちの子どもたちが小学生になって、家で朗読のカードを渡されて、それをやると、それを聞いて一緒に読むことができるという話を聞いたりすると、それが教科書採択に直接どうだということではないのですが、そういうつながる部分がもしかするとあるのだろうなということを感じたりするところがございます。

○濱田委員 教科書、非常にボリュームがありますし、6年間の教科書ですから大変だと思うのですが、我々も読ませていただきました。私は、国語の中で読書というか、物語を読むことは非常に大切ではないかなと思っています。どの教科書にも読書活動につながる内容が載っているのですが、特に光村は巻末に特集でこのようにまとめて載せてあるんですね。これが非常に使いやすいのもありますし、子どもたちの参考になるのではないかなと思います。本の世界を広げようという、いろいろな文脈に分かれて、分類されて載っていますので、これも子どもたちに非常に参考になるのではないかな、あるいは使いやすさにつながるのではないかなと思っています。

○伊藤教育長 読書案内、また、今見ていると、この本を読もうという付録みたいなものが巻末についているということでまとめてあると、子どもたちが使いやすいのではないかなという意見でございます。文字の学習という中で、その発展という形では、子どもたち

が日々読書活動に進めるような形で、どこの会社も読書案内はついているのですが、光村のほうはよくまとめてあるという濱田委員の意見だったように思います。

ほかにはいかがでしょうか。

意見がないようでしたら採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手してください。

(東書0票、教出0票、光村5票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました光村を採択することに決定します。

以上をもちまして「国語」の採択についての審議を終了します。

続いて、小学校教科用図書「書写」の審議に入ります。

採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 書写は、東書、教出、光村の3社です。報告書2ページをご覧ください。報告書を読み上げさせていただきます。

東書は、「知識・技能」を習得するために、見開きで指導内容がまとめられており、全学年を通して『書写のかぎ』として学習のポイントが提示されている。また、『生活に広げよう』『学びを生かそう』が構成され、日常生活に生かしたり、他教科と関連させたりする活動が取り上げられている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、習得した書写の能力を各教科等の学習活動や日常生活に生かすために、『レッツ・トライ』により具体的な場面が提示されている。学習の進め方については、4段階で表記し、児童が毎時間自ら見通しをもって取り組むことができるように工夫されている。学校からは、「適切に運筆する能力を育成するための工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、『ねらい』『たいせつ』『学習の進め方』が表記されており、二次元コードですぐ確認しながら、児童が主体的に学ぶための工夫がされている。また、『書写広げたい』で他教科と関連しながら、SDGsや防災等を意識した日常に生きる学習の工夫が多くされている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告に対しまして、委員の皆さんから、ご意見、ご

質問等ありましたらお願いいたします。

○武井委員 書写の教科書を使った授業は、年間大体何時間ぐらい行われるのでしょうか。

○奥泉委員長 書写の授業に配当する授業時数は、各学年年間 30 単位時間程度を配当することになっています。また、第 3 学年以上の各学年では毛筆を使用する書写の指導があります。

○伊藤教育長 年間 35 週と考えると、1 週間に 1 回ぐらい書写の時間があるということです。だから、子どもたちの中では、国語という教科の時間割の中に書写の時間があるよということに理解しているのではないかなと思います。

○海野委員 各社二次元コードなどが入っているかと思うのですが、ICT の活用という部分でどんな工夫があるのか、教えていただけますでしょうか。

○奥泉委員長 文字の書き方に加えて、用具の片づけ方などの動画があり、二次元コードによる ICT を活用した学習が豊富になっています。そのため、児童が興味関心を持ちやすい工夫がされています。

○伊藤教育長 書写の授業だと、子どもたち、片づけが本当に大変なのですよ。そういう意味では、ICT、二次元コードで子どもたちは、ああ、こういう手順でいくのだということが分かることは大事なかなとは思いますが。

○伊藤教育長 ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問もないようなので、採択に向けての協議を進めたいと思いますので、ゆっくり教科書を改めて見ていただいて、ご意見等あればお願いいたします。

35 時間、週に 1 回でも、教科書でやるとすごい量なのですよ。奥泉委員長の報告で「各内容の分量とその配分が適切である」という学校意見があって、教員にとっては、すごくたくさん教科書だったら、今年、この書写の教科書を使っていたら終わらないなということもあったりするので、これを利用して指導する、支援する側の教員たちにとっても、その分量とか、扱っている内容は大きいのかなと私は思うところですが、皆さんはどうですか。

○平井委員 各社とも学習の流れや進め方が分かりやすく示されているので、学習しやすいと思います。毎週 1 時間という短い時間の中で学習するため、文字の正しい形や正しい筆の使い方を丁寧に指導することが大事と思われま。教出や東書は筆の運びが分かりやすく示されていると思います。書写は国語学習に準じた内容が示されているので、国語の

教科書と同じものにすることで一貫した指導ができると思います。

○伊藤教育長 東書や教出については、毛筆というか、筆の使い方についてはすごく良く示されている。ただ、全体としては、国語という中で、国語の教科書と書写が一体化しているほうが指導しやすいのではないかなという意見でございますね。

○濱田委員 書写の指導についてですが、書き方から片づけ方の指導まで、一連の流れで掲載されていることで、非常に児童が見通しを持って学習することができるのではないかなと思います。これに加えて、デジタルコンテンツを効果的に活用することで、さらに児童の主体的な学習につながるのではないかと期待しています。

○伊藤教育長 ぱっと上から見ると、三者三様の表紙なのですが、表紙についてコメントいただくとありがたいです。子どもたちに最初に目に飛び込む表紙って実は結構インパクトがあって、そういう意味でいうと、三者三様だなと思うのですが、何か意見がありましたらどうぞ。

○濱田委員 私は、猫を使った絵が非常にいいのではないかなと思うのです。

○伊藤教育長 猫ですか。

○濱田委員 光村、これ、猫ですよ。1年生なんかは、表紙を見て、飛びついてくるのではないかなと思うのです。6年までずっと猫なのです。最後、6年生は卒業するので、そういう表紙になっていましたので、面白い表紙の教科書はいいのではないかなと思いました。

○伊藤教育長 濱田委員が言うのは、それが成長過程で続いているということが面白いのではないかなと思われたということですか。

○濱田委員 全体を見てしまったから。

○伊藤教育長 そういうことも、私は教科書採択の1つの観点でもあるかなと思っているところでございます。書写の教科書は、子どもたちは、文字を書いて、それを人に伝えたいという思いから持って、要するに言葉を勉強するときは、最初は耳でやって、しゃべるようになるのですが、しゃべるって、例えば大声で言うのは別ですが、人に対してなのですが、多くの人に伝えるためではなくて、文字にそれを表すことがすごく必要になると、文字を書きたがってくるのですよ。その中できれいな文字を書くこととか、例えば毛筆で自分の形をつくり上げるとか、その基本をするとすると、私自身は、先ほど皆さんのICTというのがあるのですが、ICTは要らないのではないかなとこの部分では思ったりもするのです。本当に文字を、形をきれいに書く喜びとか、毛筆、筆を使って表現すると

いうものにもっと集中してもいいかなとは思ったりもするのですが、今の子どもたちは1人1台端末を持っていますので、それを活用して学習を進めるということは必須の条件でもあるのですが、どこかの教科書会社がそういう教科書をつくったら画期的だなと私は個人的に思ったりするのですが、皆さんはどうですか。

○武井委員 そうかもしれません。

○伊藤教育長 皆さんはどうですか。平井委員のときはタブレットはなかったでしょう。

○平井委員 全然。1つ1つ指導してきているので。

○伊藤教育長 それでは、ほかに皆さんからご意見等ありましたらお願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、今日は13種目ありますので、ゆっくりはしてはいただけませんが、皆さんの意見は聞きたいと思いますので、ありましたら遠慮なくお願いいたします。

それでは、採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 教科書目録順に「書写」の発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書1票、教出0票、光村4票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の4票を得ました光村を採択することに決定します。

以上をもちまして「書写」の採択についての審議を終了いたします。

続いて、小学校教科用図書「社会」の審議に入ります。

それでは、奥泉委員長、採択資料作成委員会の報告をお願いいたします。

○奥泉委員長 社会は、東書、教出、日文の3社です。報告書3ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、1人1台端末の活用を想定して、多様なデジタルコンテンツを掲載し、個別学習や協同学習などの様々な場面で活用できるようになっている。また、デジタルコンテンツを充実させることで教科書の内容を堅持し、児童の重量負担にも配慮した内容になっている。更に、教育基本法第2条に関連して、『学習の進め方』や『まなび方コーナー』を提示し、主体的に問題解決的な学習を進めることや、基礎的・基本的な技能が定着できるよう配慮されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、教育基本法第2条4号と関連して学習をSDGsの視点から振り返るなど、環

境の保全に寄与する態度を養えるようになっていく。神奈川県を題材とした教材が多く掲載されており、児童の興味関心を高められるようなカリキュラム編成が可能になっている。また、社会的な見方・考え方を働かせた学びを促すために、ヒントとなるキーワードを太字で提示したり、キャラクターの吹き出しを随所に用いたりして児童が気付きやすい工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

日文は、学習指導要領に示された「社会的な見方・考え方」を育む為に、3つの視点（空間、時間、相互関係）と方法をより具体的に示す『見方・考え方コーナー』が設けられている。更に、児童の理解が深まる構成について、問題解決的な学習が展開できるように図を用いて分かりやすく提示されているとともに、個別最適な学びを支えるワークシート等のデジタルコンテンツが多数用意されている。SDGsを通して、日本や世界で見られる諸課題への意識を高められるように、『考えよう！SDGsコーナー』が32カ所設けられている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。以上です。

○伊藤教育長 それでは、これから採択資料作成委員会委員長についての質問ということで、報告に対してご質問ある方はよろしくお願ひいたします。

○濱田委員 今報告の中で、教出のところで神奈川県を題材とした教材が多く掲載されているという表現があったのですが、地域に密着するというところで、地域学習には効果的だなと思うのですが、その他の教科書の地域学習はどの地域を学習しているのか、分かりましたら教えてください。

○奥泉委員長 教出以外の地域学習については、採択資料作成委員会では報告がありませんでした。事務局から回答をお願いします。

○教育支援課長 地域学習の単元において、東書につきましては福岡県福岡市、日文につきましては兵庫県姫路市を取り上げているところでございます。

○伊藤教育長 東書が福岡市、日文は姫路市を取り上げているところでございます。

○海野委員 それぞれデジタルコンテンツが多数掲載してあるということなのですが、調査員から具体的な説明はありましたか。

○奥泉委員長 児童1人1台端末を想定して、多数のデジタルコンテンツが掲載されています。具体的には、二次元コードから内容に関する動画をすぐに見ることができるようになっていきます。

○伊藤教育長 教育委員さん方とも調査したとき、スマホ等で見たのですが、出てくるのですよね。動画、写真も出てくるし、ここにも日本中飛び回れるという感じになっていて、ある意味すごいなと思いました。

○武井委員 これから様々なところでSDGsが出てくると思うのですが、そのSDGsの扱いについての説明はあったか、もう少し詳しい説明をしていただきたいと思います。

○奥泉委員長 委員会では審議されませんでしたので、事務局から回答をお願いします。

○教育支援課長 SDGsについては各社とも取扱いがございまして、例えば東書については、先ほどもお話にありましたが、二次元コードによりデジタルコンテンツと各単元とを関連づけるような工夫が見られました。教出につきましては、各単元の後半部分に「SDGsとつなげて考えよう」というような学習機会が設けられております。日文につきましては「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」というコーナーがあり、学習してきたこととSDGsを関連づけて学びを深めるような工夫がありました。

○伊藤教育長 社会という教科の特性上、生活につながるということで、SDGsの課題はかなり表現せねばならないと思っているところでございます。

今、我々は教科書を採択しているのですが、実は先ほど皆さんの意見を聴いていて、デジタルコンテンツという特性と最初に濱田委員からあった地域教材という特性があります。事務局を見ると山田就学支援課長が小学校の教員ですよね。小学校で自分で授業をしているときに地域学習についてはどのような思いがあったか、お知らせいただけますか。

○就学支援課長 教科指導を離れて随分になりますが、個人的にやってきた感覚で言うと、子どもたちの地域というのは、空間的にはまずご近所さんから始まって、ワンブロックになって、丁目になって、学校へ行き始めると多分学区となって、発達段階により、市なり、県なり、日本全域に空間的に広がっていくものなのかなと思っていました。一番ベーシックなのは、やはり自分が住んでいるまちだと思うのです。学区だったり、我がまち海老名が土台になるのかなと思うのです。なぜかというと、実際に見に行けるのですよ。見て、話を聞いて、自分の地域ではどんなお店があって、どんなものが売られているのかなとか、どの場所にどんなものが作られているのかとか、消防署とか、犯罪とか、調べてみると率直に言って面白いのですよ。多分その経験がベースになって広がっていくのかなと思いつつながら、私は、例えば神奈川県で箱根に遠足に行ったりして、これが教科書に載っていたとか言って楽しく勉強していました。

○伊藤教育長 実際の教員の立場で社会を教えるとなると、やはり身近なところからスタ

一トして、だんだん広がっていくという地域学習。そういう意味でいうと「わたしたちの海老名」。教科書はあるのですが、海老名市の地域教材ということで、それを勉強するような副読本があるということでございます。

少しまた発展してしまいましたが、採択資料作成委員会の報告についての質問等でほかにある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは「社会科」について採択に向けた協議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

改めて目を通していただきたいと思います。

○濱田委員 6年生の教科書を見ていまして、私たちの時代には公民という部分が教科書の後半にあったような気がするのですよね。今見ると公民が前半に出ていまして、多分遠足で国会議事堂などを見学するところに合わせて、公民の学習をしてから、そういう直接的な国会議事堂などの見学というのは効果的なのではないかなと思います。歴史の教科というのは非常に長いので、時代によってはかなりボリュームを取ってしまうのではないかと思いますので、この教科書全部で公民が先に来ているというのは非常にいいことだなと思って見ていました。

○伊藤教育長 単元の配列というか、扱いが先に公民。だから、小学校6年生になると、縄文時代が1学期中進んでいるような学年、クラスもあったりするのですよね。あとは、戦国時代になると、それにとっても興味のある先生は戦国時代から進まなかったりするというのが実際のところあって、公民は本当に政治というか、自分たちの暮らしをよくするという意味でのそれぞれの役割について勉強する大事な分野がすごく短くなるというのが、えてして現場ではあり得たような感覚を私は持っているのですが、そういう意味では、濱田委員が言ったように、もう全ての教科書がそのような形で取り扱っているのは本当に良いことだなと私自身も思います。

○海野委員 先ほどからSDGsという言葉が何度も出てきているのですが、日文には「考えよう！SDGsコーナー」というのがありまして、32か所あるとさっき書いてあって、ご説明いただいたのですが、そういったことが子どもたちの学習にとって有効であるのではないかと感じました。

○伊藤教育長 SDGsについては日文の扱いが非常に有効であるという意見でございます。

○武井委員 図や写真などが二次元コードで子どもたちが見られるのはとても良いことだと思っています。ただ、直接それぞれ公共施設なり、産業を見学したり、自分たちで稲作をしたりするなど、先ほど山田就学支援課長もおっしゃっていたように、実際に経験することを重要視することが大切なのだなど、教科書を見ていて、改めて感じたところがございます。

○伊藤教育長 武井委員は農家で、イチゴを作っておられるということなので、そういう意味で子どもたちとの関わりがあつたりもするのですか。

○武井委員 職場体験はなるべく受け入れるようにいたしております。生徒たちが生で実際に触れる機会をつくっております。

○伊藤教育長 武井委員はイチゴ、ほかにも海老名市内では稲作をやっている方がいて、学校によっては稲作活動をメインに総合的な学習の時間を扱っている学校もありますし、実際に扱うことはとても大事なことだなどは思っているところです。でも、実際に行くことができない場所が見られるとか、その兼ね合いが社会科ではとても大事なのではないかなと感じるところがございます。

○平井委員 3年生から社会科学習に入っていくわけで、1・2年生の生活科の学びから社会科学習へと視野が広がって、地域へつながっていく。そういう点では、教出は地域学習において神奈川県横浜市を取り上げています。令和6年度神奈川県教育委員会の教科用図書調査研究の結果を見ると「題材に関連した神奈川県に関する主な文章や写真・グラフ等の掲載」の数は他社に比べて2倍以上あります。子どもたちにとっては身近に感じられ、学習しやすいと思われしますので、学習をしていくには適しているかなと思います。

○伊藤教育長 委員さん方、今、平井委員から、今日、資料がいつていますけれども、小学校、義務教育学校の前期課程、教科用図書調査研究の結果という令和5年6月の神奈川県教育委員会の報告書があると思います。その社会8、9ページに目を通していただいて、参考資料として題材に関連した神奈川県に関する主な文章や写真・グラフ等の掲載を調べている表があると思うのです。それを皆さんでご覧になって、平井委員からは2倍ということですが、これで言うと、東書は量でいったらこれぐらい、教出はA4、1ページが神奈川県の題材である、日文は東書と同じぐらいの量であるということ、この調査結果の中では、教出が神奈川県に関する主な文書や写真やグラフの掲載が非常に多いと言えるということがございます。ありがとうございます。

国語のときはあまりなかったのですが、社会科になったら急にキャラクターが来て、先

ほどの採択資料作成委員会委員長の報告の中であったのですが、例えば神奈川県教材がたくさんある教出は「キャラクターの吹き出しを随所に用いたりして児童が気付きやすい工夫がされている」という採択資料作成委員会委員長報告があったのですが、私はキャラクターはいかなるものかなと実は思っています。どこの教科書もキャラクターが出て、中にはとても著名なキャラクターが出ている教科書も実はあるということなのですが、どうですか。子どもたち、社会科学習の自分のイメージとしては、1つの大きな写真とか、実際に物を見たり、人の話を聞いたり、または1つのグラフとか、そういう中から自分で問題を発見して、同じ問題を違う問題を持つ人と話し合ったりしながら目標設定していくという学習の流れなのに、キャラクターがご丁寧に、このことはどうですか、このことはどうですかというのは、教科書としてはどうですか。

子どもたちが主体的にというか、自主的に教科書を読みながら学習を進めることは可能なのかもしれませんが、ヒントにはなりますが、問題発見とかという、本来子どもたちがその教科書の中で身につける力について、少し丁寧過ぎないかなというのが私の感想ではあるのです。皆さん方、キャラクターはどうでしょうか。

○武井委員 昔はなかったですね。

○伊藤教育長 キャラクターが良いと考えるかもしれないし、子どもたちにとってはどのような教科書にするのかな。

○武井委員 どの教科もキャラクターを設定して、設定したところから進んでいくというようなところが見受けられるし、多いと思います。子どもたちが考える方向性をキャラクターが方向づけているというのが感じ取れて、そこが先ほど教育長がおっしゃっていたところなのだなど僕も感じていますので、キャラクターが出る場面や意見の量とか、数とか、そういった調整はこれから必要なのだなどは感じております。

○伊藤教育長 無理やり武井委員に言わせたみたいで申し訳なかったです。

○武井委員 確かに多いのは分かります。

○伊藤教育長 だから、教科書って何、という本当に根本的なものを問われるような感じがしないでもないようなつくりだなど私自身は思っているのです。

今、様々ご意見をいただきましたが、見た感じでほかにはどうですか。採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、教出5票、日文0票)

○伊藤教育長 平井委員からありましたように、地域教材という中では本当に身近な題材を非常に多く取り上げられているというのが1つの決定のポイントになったかなとは私自身は思うところでございます。

以上の結果、最多の5票を得ました教出を採択することに決定します。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 これをもって「社会」の採択については終了といたします。

続きまして、小学校教科用図書「地図」の審議に入ります。それでは、準備をお願いします。

それでは、採択資料作成委員会の報告を、奥泉採択資料作成委員会委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 地図は、東書、帝国の2社です。報告書4ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、歴史の学習時に活用できる資料が、豊富に記載されている。世界地図の国名が日本語表記と英語表記を併用し、国際理解につながる工夫がされている。また、冒頭の日本のイラストマップで、日本の建造物や食文化などを紹介し、児童の意欲を喚起する内容になっている。地図中の文字や記号が大きく、丸ゴシックのフォントは太さの違いが少ないため、読みやすい表記となっている。学校からは、「学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

帝国は、町を斜め上から、真上から、航空写真など、様々な見方で地図が表現されており、楽しく地図に親しめるようになっている。更に、二次元コードを活用して1人1台端末などでコンテンツの利用ができ、児童の学習意欲の向上につながるよう工夫されている。地図表現については、記載内容を精選し、大きなイラストを多数掲載されている。また、外国の地図は、国ごとの色分けがされていて、分かりやすくなっている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。以上です。

○伊藤教育長 それでは、採択資料作成委員会委員長の報告に対してご質問等ある方、お願いいたします。

○濱田委員 報告、ありがとうございます。資料や情報の内容について何か調査員から具体的に説明があったかどうか、教えていただきたいと思います。

○奥泉委員長 各ページに、図や写真、イラストなども掲載されており、大変分かりやすいという報告を受けました。また、歴史の内容と関連した情報もあり、児童の関心につながること、国ごとに色分けしていること、地形が分かりやすく見える工夫があるという意見がありました。

○武井委員 東書は海老名市周辺の農作物や特産物とかの情報などが多く、そういったことは授業で多く活用できるのではないかと思います。ただ、海老名市でも「わたしたちの海老名」という地域教材を副読本として発行しているので、それを活用することが望ましいと私は考えています。

○伊藤教育長 これは、質問というより、意見ということで受け取りたいと思います。

武井委員などもそうですが、イチゴを作っていたら、神奈川県では海老名だけにイチゴの絵が欲しかったよね。

○武井委員 そこはそうですね。ただ、そうはいつでも。

○伊藤教育長 でも、どうですか。皆さん、子どもの頃、地図が好きだったでしょう。時間が空いて、先生方には失礼けれども、授業がつまらないときは地図をよく見ていましたよ。それほど子どもたちにとってはすごく場面というか、思いが広がる教科用図書なのかなと思っていますけれども、皆さんはどうですか。

情報量ってどうなのでしょうかと私は思っている。あまりごちゃごちゃ地図の上に載せられても困るな。そうしたら、どういう視点で、どういう観点で載せるのかとなったときに、すごく難しいかなとも考えたりするところです。今の地図帳を見ると、本当にご丁寧にそこら中に農産物が描いてあったりするのもいかなものかな。でも、歴史的なものとか、国際的なものでは、それぞれの文化、民族衣装を着た方々とか、そういうものが載っているのも子どもの1つの興味関心にはなるのかなと思うところですが、皆さんが見て、どのように思われるかなと思っています。

それでは、意見等ありましたらお願いします。先ほど武井委員からは、例えば農作物とか、地図帳に載っていないなくても、「わたしたちの海老名」とかの地域教材を活用して、そういう産業については、地図の資料もそうですが、しっかり載せてほしいということがございます。子どもたちがよく見ているのは、世界一長い川とか、世界一高い山とか、ああいうコーナーがとても好きで、そういうのもどうなのかなとも思ったりするのですが、世界地図って地図帳の後ろのほうにあるのでしたか。

○武井委員 そうです。

○伊藤教育長 SDGs とかが載っているのですね。この資料は丁寧だな。

○武井委員 統計はこの2社で特徴が出ています。ページ後半のほうになると、統計的な資料が出ていて、見やすい山の高さとかがあるのですが、各社特徴があって、東書と帝国書院で見方が全然違うようなことは地図を見ていて感じました。

○伊藤教育長 扱いのね。

○海野委員 帝国の地図なのですが、色の使い方だと思うのですが、濃いところ、薄いところで、高地とか、平地とかがすごく見やすく、立体感が伝わってくるかと思うのです。また、資料の情報についてお話が出ましたが、後ろのほうにいろいろなことが載っているのですが、最新のものであって、充実しているのかなと思います。

○伊藤教育長 どちらですか。

○海野委員 帝国です。

○伊藤教育長 ということですけれども、私もそうなのですが、多分皆さんも、ずっと帝国の地図ばかり見てきたから、目が慣れていて、この色使いがもう、地図帳というと、こういうものである。東京書籍が出して、それまであまり競合しなかった部分も実はあります。だから、多分見やすいのだと思いますよ。子どもの頃からずっと見ていて、経験上、帝国書院の地図の色がすごく見やすいというのはあるのではないかなと思います。

地図についてほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、2社ですので、また教科書目録順に発行者を読み上げますので、採決していきたいと思います。

(東書0票、帝国5票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました帝国を採択することに決定します。私も含めて地図帳については少し保守的なのかなと思ったりもするのですが、見慣れたというのは実際あるのかなと思います。だから、先ほど意見がありましたが、もう少し子どもたちにとって良い資料となるものを研究していただくとさらに良いかなという感想を持っているところがございます。

○伊藤教育長 それでは、続いて「算数」の審議に新たに入りたいと思いますので、よろしく願いいたします。では、準備をお願いします。ゆっくり、自分の好きなことをたくさん言っていただいて結構です。

○武井委員 分かりました。

奥泉採択資料作成委員会委員長も焦らず報告してくださって大丈夫ですので、よろしくお祈いします。

それでは「算数」について、採択資料作成委員会の報告を、奥泉採択資料作成委員会委員長、お祈いいたします。

○奥泉委員長 算数は、東書、大日本、学図、教出、啓林館、日文の6社です。報告書5、6ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、教育基本法第1章第2条に基づき、算数の学習を通して課題を解決していく考える力を身につけさせるため、既習事項との繋がりや発展的、創造的な課題の提示などに対して配慮がされている。第1学年のA4版別冊が付くなど、具体物を実際に操作できる学習場面が多数掲載され、数の概念の定着を図る工夫がなされている。学校からは、「数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大日本は、かながわ教育ビジョンに関連して、巻頭で問題解決学習の流れを示している。また、対話を通して学びを深めることができる展開やペア・グループ学習など意見交換の方法が、例示されている。全体的に落ち着いた色を採用するとともに、その学年で習う漢字は最終ページまでルビ振りを行うなど、全ての児童が読むことを想定した表記となっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、学習指導要領で示された「数学的な見方・考え方」を『考え方モンスター』としてキャラクター化することで、覚えやすく使いやすい形式になっている。数量の関係を整理する際には、数直線に加え4マス関係表での整理の仕方についても記載があり、複数の方法で数量関係を捉え、児童が自分に合った方法で活用できるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、各学年に授業開きの特設教材が設定され、児童が学習の進め方や対話の仕方を共有し、学びに向かう力を育成できるよう工夫がされている。また、日常生活から問題を見出す場面と算数の学習から問題を見出す場面をバランスよく設定されている。モジュール授業等の10～15分の短時間学習にも対応できるよう構成されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、数直線図が系統的に扱われているとともに、関係図での整理の仕方についても記載され、複数の方法で数量関係を捉えられるよう工夫されている。教科書の主問題の解説動画が973点あり、学び直しや自主学習に役立てられる。また、単にプログラミングの技能を高めるだけでなく、数学的な学びが得られるようなコンテンツが工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

日文は、二次元コードの上に『練習』など内容を示し、どんなコンテンツか分かりやすくなっている。また、全学年に『レッツプログラミング』のページがある。学習を発展させる内容が取り上げられていることに加え、自学自習に対応しており、学習内容の難易度が3段階に分けられている。そのため、児童の学習状況や学級の実態に応じて活用できるよう工夫されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告について質問等がありましたらお願いいたします。

○海野委員 採択資料作成委員会ではどのようなことが話題になりましたか。

○奥泉委員長 教科書によっては、人権教育を意識したイラストやキャラクターを取り入れているという話題がありました。また、児童にとって教科書が読みやすいと感じられるような工夫がされているという説明もありました。

○伊藤教育長 人権教育を意識したというのはどういう意味でしょう。今、奥泉委員長から人権教育を意識したとありますが、どのようなことが該当するかということについて、事務局でありますか。人権教育を意識したという扱いについてお願いします。

○教育支援課長 教科書に登場するイラストとか、性別に関わらないとか、障がいを持った方ですとか、そういった多様な子どもたちというか、キャラクターというか、イラストを使っているというのが話題になっていたと思っています。

○奥泉委員長 加えて、外国籍の子たちが今は多いので、そういった表記もされているという話がありました。

○伊藤教育長 算数的な思考などにかかわらず、教科書の表記の中に多様な子どもたちの状況が取り上げられているということですね。だから、男女はもちろんのこと、例えば外国籍とか、また、障がいは当然のことなのでしょうが、多様な子どもたちが表記されているということだと思います。

○平井委員 ほかの教科との関連など、カリキュラムマネジメントに関する工夫や配慮についての話題はありましたか。

○奥泉委員長 委員会では審議されませんでした。事務局より回答をお願いします。

○伊藤教育長 それでは、他教科との関連、カリキュラムマネジメントに資する工夫や配慮について回答をお願いします。

○教育支援課長 神奈川県は教科用図書調査研究の結果によりますと、他教科との関連とカリキュラムマネジメントに資する工夫や配慮として、各社とも教科横断的な学習の一環として、例えば社会科、家庭科、音楽科等と関連した学習活動が設定されているかと思えます。

○伊藤教育長 社会科ならある程度グラフなどが出るし、家庭科だと分量とかなにかが出てくるだろうけれども、音楽はどうですか。

○平井委員 分数的なもの、2分の1拍子とか、4分の1拍子とか。

○伊藤教育長 拍子とかなんかで2分の1とか、4分の1とか、4分の3拍子とかですね。

○武井委員 算数的活動として、東書は「具体物を実際に操作できる学習場面が多数掲載され」とあったのですが、具体的にはどのようなことなのか、説明をお願いいたします。

○奥泉委員長 こちらも委員会では具体的な内容についてはありませんでしたので、事務局から回答をお願いします。

○教育支援課長 「具体物を実際に操作できる学習場面」については、東書に限らず、各社においても、例えば低学年でドングリなどの具体物を数える学習ですとか、クリップなど身近なものを使って大きい数を数えるような学習などがございます。

○伊藤教育長 最初の数を数えるのに具体のものとかにか、あとは、黄色いブロックのようなものを使っていましたね。

○武井委員 具体物のほうが分かりやすいですね。

○伊藤教育長 そういう意味での具体的な活動も多分教科の授業の中ではなされているのかなと思ってございます。

ほかに質問等ありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択資料作成委員会の報告に対しての質問はこれでよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 続きまして、採択に向けての協議をお願いしたいと思います。ご意見のある方はお願いいたします。

その前に、私から事務局に問うてよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 事務局の小宮教育担当理事は、実は中学校の数学の教員なのです。中学校の数学の教員から見て、小学校の校長も経験されましたが、小学校の算数についてどのような考えがあるか、ちょっと教えていただけますか。

○理事(教育担当) 中学校になると、算数が数学となりますが、数学ではかなり抽象的な学習というか、論理的な部分が多くなってくると考えます。例えば計算でも文字式、Aとか、Bとかいう文字が入った式になるとか、方程式を解いたり、図形等についても面積や体積を扱うのは中学校1年生までで、その後は、なぜそれがそのようになるのかという証明問題が中心になったりしてまいります。そうなったときに、具体的な意味が分かって計算や証明とかをしていくのではなくて、中には、本当に分かっていないと、数字のパズルというか、こうやるのだよという手順でやり方を覚えて答えを出すような生徒もおりまして、小学校の校長になってから授業を見て回ったときに、これは本当に小学校の6年間で、発達段階に応じて数量の感覚であるとか、幾つの数を1とみなしたときにとかということ積み重ねて、そういう土台ができるのだなと感じたところです。そういうところが丁寧にされていないと、いわゆる目の前の問題。中学校で目の前も問題が解けても、活用ができないというか、生きて働く知識、理解にはつながらないことになるのかなと感じたところです。

また、教科書とは違うのですが、指導する中学校の教員が6年間の指導の過程をしっかりと理解した上で指導することも中学校のときは大事なのだろうなと思ったところです。

○伊藤教育長 中学校の数学の教員ですから、その目を見てどうなのかということでした。採択資料作成委員会の報告であった「具体物を実際に操作できる」、発達段階では本当に必要かなと思ったりもします。中学校の数学の教科の中でも、具体的物として内容的に理解できているかどうか genuinely 問われているようなところが最近があります。よく理解するというか、それをまた、活用につなげるためにということで課題になっているところがございますが、それでは、委員さんから算数の教科用図書についてご意見等ありましたらお願いいたします。採択に向けての協議を進めます。

○海野委員 どの発行者も1年生のスタートカリキュラムを意識して、教科書の分量や体

裁がよく工夫されていると思います。また、教科書会社によっては、高学年は上下分冊になっていて、児童の持ち物の形状等を意識していることが分かるので、それについては配慮すべきことだなと感じました。

○伊藤教育長 先ほどの分量のことで、子どもたちの荷物の軽減というか、負担にならないようにという意味で、高学年になって1学年1冊で進めているところと分冊になっている発行者があるということで、海野委員としてはどちらが良いと思っているのですか。

○海野委員 教科書が大きくなってきたりとかしていて、いろいろな内容も増えているので、学校へ通うときにあまりに重くなってしまふのはというところでは、分冊になっているのはとても良いことだと思います。

○伊藤教育長 保護者の立場からの意見ということで分かりました。

○濱田委員 先ほど事務局から説明がありましたように、武井委員の質問にもお答えになりました具体物を扱っての数の概念を身につけていくことは非常に重要であると思います。そういった意味では、東書は各学年で特徴的に多く使っているというのが非常に良いかなと私は考えております。

○伊藤教育長 濱田委員としては、東書の具体物の扱いについてよく扱っているということによろしいですか。

○濱田委員 はい。

○平井委員 各教科書会社の教科書を見てみると、本当に工夫がされていて、昔に戻って指導したくなってくるような気がします。低学年は特に工夫がされていて、子どもたちと学んだら楽しいだろうなと思います。具体物も多く出ていますし、本当に教材の工夫がされていますので、どこの教科書会社を使っても子どもたちは楽しい学びができるのではないかなと思います。それだけに、海老名市では、見直しを考慮しながら、それぞれ教科書で学んできています。児童の学習理解を深めたりするために、各学校では校内研究を進めていまして、教材研究を深めてきています。現実にもこういう状況の中で来ていましたので、先生方が一生懸命やってくださっているのだなという思いはしています。このような現状から、現在使用の教科書を中心に学習指導を行ってきている教員にとっては、東書の教科書が継続されることが望ましいのではないかなと思われまふ。

○伊藤教育長 平井委員なんかにもそう言い出されると、誰も何も言えなくなってしまうのが少しつらいところがございますが、海老名はずっと東書なのです。私が教員になった40 数年前からずっと東書の教科書を使っていて、先生たちはかなり校内研で国語、今は

道徳を研究している学校もあつたり、様々なのですが、算数の研究は大体どこでも何年かに一遍やられているので、教材研究はかなり尽くされている。だから、教科書自体は子どもたちにとってどうであるかということがあるのですが、学習計画を立てる立場の教員にとってどうであるかということもあって、皆さんでやって、私の立場で言うと、教科書についてずっと同じものを使っているのはいかなものかという思いもあるのですが、使う立場の教員にとっては、伊藤教育長は、教科書を替えて、教材を替えて、一からやり直させるのかという文句の声が聞こえてくるような気が私自身はしたりもするのですよ。でも、我々は、子どもにとって、また、教員にとってどの教科書が一番いいのか。そういう意味では、ある意味、見直しと改善を図りながら、教員の立場、視点から、同じ教科書、教材研究の負担が増えない、またはもっとより良い教材研究をして、その教科書を使って教科学習を進めていくという視点は1つあるのかなと私自身は思っているところでございますが、どうでしょうか。そうやって私が言うのも、また少し良くない意見だったですね。でも、教師の立場から判断するのも我々の1つの判断材料になるのではないかなということ添えさせていただきます。

これだけの教科書が本当に工夫されていて、先ほど平井委員をもう1回教壇に戻す内容の教科書ということだから。子どもたちと一緒に授業ができて、子どもたちの「できた」とか「分かった」とかいうのは本当に楽しいのですよね。だから、そういう支えになる教科書であることが一番なのですが、そういう意味では、本当によく工夫されていると言えるのかなと思います。

○海野委員 海野委員は算数は好きでしたか。

○海野委員 割と好きでした。

○伊藤教育長 濱田委員はもうよろしいですか。武井委員はどうですか。

○武井委員 大丈夫です。

○伊藤教育長 では、採決に移ってもよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ほかにご意見もないようですので、採決いたします。6社ありましたがけれども、教科書目録順に読み上げますので、挙手をお願いいたします。

(東書5票、大日本0票、学図0票、教出0票、啓林館0票、日文0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました東書を採択することに決定します。

「算数」の採択についての審議を終了といたします。

それでは、ここで休憩に入りたいと思いますので、委員さん方、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、傍聴の皆さんもこれから休憩に入りまして、午後1時からの再開といたしますのでご了承ください。

それでは、暫時休憩といたします。

( 休 憩 )

○伊藤教育長 それでは、1時になりましたので、審議を再開いたします。

続いて、小学校教科用図書「理科」の審議に入ります。

採択資料作成委員会からの報告を、奥泉採択資料作成委員会委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 理科は、東書、大日本、学図、教出、信教、啓林館の6社です。なお、信教は見本本が送付されませんでしたので、調査はしておりません。報告書7ページ、8ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、教育基本法第2条に示されている「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」に関連し、全ての単元導入に課題をつかむための活動『レッツトライ』を設定し、対話を通して思考を広げたり、合意形成をしたりできるように工夫されている。巻末の資料では、書く・話す、深める、観察、実験の4つの観点でまとめられており、必要な時に調べられるようになっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大日本は、『りかのたまてばこ』『Science World』を多数掲載することで、児童の知的好奇心に応えるとともに、知識と教養を高められるよう工夫されている。表記・装丁については、文節単位での改行、全面的なユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色などの工夫を行うことで、児童の学習上の困難さに配慮している。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、教育基本法第2条に示されている「勤労を重んずる態度を養うこと」に関連して、学習内容と関わる暮らしや仕事の紹介を通して、理科の有用性を実感できるよう配慮されている。また、各学年における教材や観察、実験などの活動時間の分量が精選されており、標準授業時数内の学習で体験を重視しつつ、学習の深まりや発展、ものづくりなど多様な学習につなげるゆとりがある。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

教出は、学年の巻頭に、『自分たちの考えを伝えあい、学び合おう』を設け、自分の考えを伝え、相手の考えを聞くことの大切さを示している。また、『算数とのつながり』が明示され、他教科との関連が図れるように工夫されている。各学年の観察、実験で注意すべき器具や薬品の使い方などの具体的事項を『理科の安全の手引き』として掲載し、いつでも安全に留意して学習できるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、二次元コードやインタラクティブコンテンツなどの多様なコンテンツが用意され、1人1台端末のICT環境を効果的に活用できるよう工夫されている。学習指導要領で示された「見通しをもって観察・実験を行うこと」に関連して、『学びのサイクリン』では図や写真を用いてわかりやすく示すことで、児童が見通しをもって、自ら観察・実験が行えるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの採択資料作成委員会の報告について、委員からご質問等ありましたらお願いいたします。

○武井委員 理科の中で、採択資料作成委員会でどんなことが話題になったか、お教えいただければと思います。

○奥泉委員長 教科書各社でそれぞれ特徴があり、子どもが学びやすくなる工夫があることや、実験で使う器具の扱い方が紹介されているなど、教員にとっても指導しやすい工夫があることが話題になっています。

○海野委員 東書では「全ての単元導入に課題をつかむための活動『レッツトライ』」を掲載しているとのことですが、詳しく教えていただけますか。

○奥泉委員長 見開き、2ページにわたって単元に関する資料を掲載し、児童の身近な場面から課題設定をすることで、対話を通して思考を広げたり、合意形成をしたりすることができるような工夫がなされていると説明がありました。

○伊藤教育長 そのページですね。

○奥泉委員長 そうですね。

○伊藤教育長 見開きになって進んでいるということでございます。

○濱田委員 今の報告書の中で、啓林館のところで「ICT環境を効果的に活用できるよう工夫されている」となりましたが、これについてどんな説明があったのでしょうか。

○奥泉委員長 啓林館では、インタラクティブコンテンツ、動画やウェブサイトリンク

している資料系コンテンツ、補充問題、動画解説など協働的な学びや個別最適な学びをサポートする多様なコンテンツが用意されることが特徴であると説明がなされています。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択に向けての協議に入りますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 教科書を改めて見ていただいてどうですか。

○武井委員 東書は、論理的で分かりやすい教科書と感じました。問題から考察までの流れがしっかりしていることと、そのため、PDCAの視点から考えても児童が学びやすいのかなと感じ取りました。

○伊藤教育長 東書を見たということで、子どもたちが学びやすいのではないかと、問題から考察までの流れが良いということですが、ほかの教科書も学習過程、子どもたちの学びの流れのようなものを様々うまく表現されているなど私自身は思っているところでございます。

○平井委員 どの教科書もカラーがとてもきれいで、どこの教科書会社で勉強しても楽しめようと思えました。

ただ、私、こだわりが1つあるのです。それは星座の部分なのです。個人的に本を買ったこともあるのですが、高い本を買わなかったため、朝方の星座を見るのを楽しみに買ったのですが、写りが今一つはっきりしないなという思いがあったので、前から星座は子どもたちにもよく見てほしいなという思いがあって見ていったのですが、学図は割ときれいなカラーで写し出しているかなと思います。ほかの写真も割ときれいに写し出されていると私個人としては思うのです。そういう部分からも、やはり視覚に訴えるものは大きいので、私は学図で勉強させても良いかなと思います。

○伊藤教育長 今、平井委員から星座のことがあって、学図で勉強させても良いかなという意見が出たところでございますが、前回、海老名市として学図を採択したときに、ほかにも写真というか、ページをつくる上で見開きとかなんかで写真を有効に使っているというのが学図の1つの特徴として、そのことが前回のときは採択の1つの要因になったかなと私は覚えているところでございます。

○武井委員 きれいですよね。

○伊藤教育長 写真がきれいなのですよ。

では、私から。平井委員は学図と言うけれども、私自身は啓林館がいいかなというように考えているところがあって、何が理由かという、まとめのノート。子どもたちの手描き風なところがあって、観察ノートなどもかなり力を入れていて、昔の啓林館は、植物を観察するとか、動物を観察することとかが、写真ではなくて、子どもたちのタッチで描かれているところがすごくあって、それがよかったかなと思っています。今NHKの朝の連続テレビ小説か何かで植物学者の話が進められています、例えば3年生ぐらいの子どもたちを見て、春の植物とか動物の観察で、自分で何か見つけたら描いてごらんとすると、子どもたちは結構必死に絵を描いてくるのですよね。葉っぱ1枚の姿とか、虫の形とか絵に描くと、虫は動きますけれども、それでも懸命に描いているのを見てると、子どもたちの観察能力は結構鋭くて、それを子どもたちが手描き風にノートに描いたりさせるという実験観察。だから、さっきの啓林館では様々なコンテンツがあるのですが、理科の中で子どもたちにどんな能力を養うかということについては、実験観察で物を見る目とか、観察する力などを高めるものであってほしいなと理科では思っているところもあります。でも、それぞれの教科で、例えば東書のように学習過程が分かりやすいものとか、先ほどの学図のように写真を有効に使っているものとかがあるのですが、私自身は子どもたちがフィールドワークではないですが、しっかり観察して、それを手書き風にまとめるというのも1ついい印象を持っているということでございます。

確かにどこの教科書を使っても、理科の場合はそれぞれの良さが結構あるなと思っているとございます。

それでは、委員さん方、採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは「理科」について、教科書目録順にまた発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書3票、大日本0票、学図1票、教出0票、啓林館1票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の3票を得ました東書を採択することに決定します。よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは「理科」の採択についての審議を終了いたします。

続いて、小学校教科用図書「生活」の審議に入ります。その前に資料の準備をお願いします。

それでは「生活」について、採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いします。

○奥泉委員長 生活は、東書、大日本、学図、教出、信教、光村、啓林館の7社です。なお、信教は見本本が送付されませんでしたので、調査はしておりません。報告書9、10ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、各単元に設けられているコーナー『学びをふかめる』に、吹き出しなど対話的な学習例が提示され、写真や挿絵、作品例を具体的に示すことで、児童の主体性と「気づき」を促す工夫がされている。『ほんとうのおおきさいきものずかん』や、動画などにつながる二次元コードといったデジタルコンテンツが多く提示されているため、児童の知的好奇心を高める工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大日本は、学習指導要領に示されている「思考力・判断力・表現力等」を図るために、話し合う、カードに書くなどの言語活動だけでなく、動作化や劇化などの多様な表現方法が例示され、児童の学ぶ意欲を高めている。また、あえてモノクロの写真を使用することで、色への視点を投げかけ、想像する楽しさや、実際の色を見て知る楽しさを実感できる。児童の視点から焦点化し、興味をもたせ、すぐに活動できるようになっている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、単元ごとの『ものしりノート』や『ものしり図かん』などの資料ページが充実しており、単元末の『もっと』のページの配置により児童が自分で活動を広げたり、学んだことを生かして意欲的に活動を持続・発展したりできるように工夫がされている。ページの見開きをひとつの活動単位とし、活動や思考の流れが分かり、見通しをもって学習できるようになっている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、教科書の巻頭から巻末を道のようにつなぐ『はっけんロード』が記してあり、親しみやすいキャラクターや自分の思いに近い言葉を教科書から見つけることができるなど、様々なしかけが作られている。巻末の『学びのポケット』では、他教科との関連が明確に示されている。また、『理科へのまど』、『社会へのまど』などでも中学年以降への学びにつながる構成となっている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、絵本のような構成で、イラストや言葉から様々な思考を促す作りになっており、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る工夫がされている。巻末に『きせつのなかまたち』『ひろがるせいかつじてん』などの別冊の資料が充実しており、屋外でも使用できるなど、児童の生活科への興味や楽しさを広げる工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、生きて働く「知識・技能」の習得のために、『学びのヒント』『こんなときどうしよう』等、おさえるべきポイントが明確に整理されている。また、教師は指導しやすく、児童が分かりやすいつくりになっている。各単元のページ右下にある『めくり言葉』をきっかけに、児童の思いや願いを膨らませ、見通しをもって学習に取り組めるような工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。以上です。

○伊藤教育長 それでは、採択資料作成委員会報告について、委員さん方からご質問あればお願いいたします。

○濱田委員 大変たくさんの教科書をご確認いただきまして、ありがとうございます。委員会の中ではどのようなことが話題になったのか、もしありましたら教えてください。

○奥泉委員長 それぞれ学習意欲、知的好奇心を持たせるための手だてや工夫がされているということが話題になりました。また、学校生活の基本を学ぶ大切な機会であるという意見もありました。生活科の学習が学びと生活をつなげているということも話題になりました。

○平井委員 今説明いただいた啓林館の中に「教師は指導しやすく、児童が分かりやすいつくりとなっている」とありますが、具体的に教えていただけますか。

○奥泉委員長 教科書に「学びのヒント」が設けられています。そこには必要最低限の絵や文字が記載されているため、押さえるべきポイントが明確になっています。また「こんなときどうしよう」もイラストで整理されており、教師が指導しやすいつくりとなっております。

○伊藤教育長 ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 もしなければ、この後、採択の協議に入るのですが、先ほどありましたように信教は資料がないということですね。信教については、我々の審議の対象としない

いうことでよろしいですか。

○奥泉委員長 はい。

○伊藤教育長 では、信教以外の教科用図書についての審議をお願いいたします。意見のある方はどうぞ。

○濱田委員 大変たくさんの教科書なのですが、東書と啓林館、幼児期の学びから小学校の学習への円滑なつながりを図るために、スタートカリキュラムを意識した構成となっているように見ました。

○伊藤教育長 スタートカリキュラムについては、海老名市としても、1つの教育課程づくりの低学年の重点として今年度から取組を始めて、さらに、スタートカリキュラムを充実させていきたいということで、実際、理科と社会の合科というか、合わせて1つの教科としてつくったときに、生活という意味で、子どもたちが小学校生活になれ親しむという意味も、先ほどの報告にある学びとつなげて進めていくということで、このことについては海老名市として今後スタートカリキュラムを充実させたいと考えているところでございます。また、その取組を進めているところでございます。

○海野委員 啓林館は、先ほど説明いただいたとおり、子どもにも分かりやすく、教師も指導しやすいため、魅力的だなと感じました。

○伊藤教育長 啓林館が魅力的だなという海野委員からの意見ですが、海野委員、我々教育委員さん方と私とで教科書研究をする中で最初は光村を推していましたよね。その理由づけを教えてくださいませんか。

○海野委員 光村の教科書なのですが、見たときに見覚えのある絵だなと思って、いろいろ見ていたときに、よく見たら、うちにも1冊あるような有名な絵本作家の方が一緒につくられているということで、そういった意味で子どもがすごく興味を持つのではないのかななんていう話をさせていただいたところです。

○伊藤教育長 皆さんの目の前に広がっていますが、雰囲気からいうと、光村の教科書だけ絵本の表紙みたいな形でいて、最初、ぱっと見たときと言う言葉は変ですが、海野委員はこれが魅力的だなとおっしゃっていたことを思い出したものですから。

○平井委員 私は生活科を子どもたちととても楽しみに勉強していたのですが、1つ気になるのはどんな教科でもキャラクターが多いことです。生活科をつくったときには、子どもたちといろいろな話合いをしながら、子どもの思いをどんどんどん引き出しながら、いろいろなものをつくり上げていくという方向を私は持ってきたので、キャラクターがい

ろいろな吹き出しで物を言ってしまうのは、子どもたちの思いを全部そいでしまうと私には見えます。ですから、キャラクターを入れるのもいいけれども、吹き出しを入れるのもいいけれども、最小限にしないと楽しい生活。子どもたちがわくわくしながら、いろいろな思いを持ってつくり出していくという点では、少しそういう想像力をそいでしまうのかな、そこがすごくもったいないなという思いがしています。

本当につくり上げていくと楽しいし、いろいろなおもちゃづくりもあるし、遊びもあるし、校内学習もあるし、子どもたちが一番楽しい学校生活の中での学びだと思っていますので、そのあたりの工夫が出てくると、教科書だけに頼らず、先生たちがつくり上げていく教科であることも知ってほしいなと思います。

○伊藤教育長 意見ということでよろしいですね。

○平井委員 はい。

○伊藤教育長 私も先ほど社会科のところでは言ったのですが、特に1・2年生の子たちというか、学校に入るときはみんな学習意欲がすごく高くて、自分であれをやってみたいな、これをやってみたいなど。それ以前の保育園、幼稚園で培った力が十分あって、それをどのようにうまく小学校は活用して、さらに成長を遂げるか。すごく学習意欲も高いので、平井委員に言わせれば、吹き出しが何かでやるのではなくて、子どもたちに聞いても大丈夫なのではないかと。「学びのヒント」ということで、教科書の1つの手だてとしてそれがここに表現されてはいるのだろうけれども、その辺を考えるのも必要ではないという意見でございます。

濱田委員は、どうですか。

○濱田委員 やはり幼稚園、保育園から学校へ上がる段階で、学校での安全面とか、生活の中でいろいろ覚える学区の中の探検とか、そういうところで学校に慣れていくファーストステップというのですか、本当に重要だと思います。先ほど平井先生から厳しい意見が出ていたので、そのような見方もあるのだなと思ひまして、孫にも頑張ってもらえよとはっばをかけたと思います。

○伊藤教育長 採択とは違って、お孫さんに頑張ってもらいたいというところで。それでも、そういう子どもたちが活用するというか、見る、目を通す、また、学ぶ教科書としてどれがいいかということで、皆さんでそれぞれの意見というか、何にするかということについて採択を進めたいと思うのですが、よろしいですか。それぞれ固まっていますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書 0 票、大日本 0 票、学図 0 票、教出 0 票、光村 0 票、啓林 5 票)

○伊藤教育長 啓林館が最多の 5 票ということで、啓林館を採択することに決定いたします。

これをもちまして「生活」の採択についての審議を終了いたします。

続いて、小学校教科用図書の「音楽」の審議に入ります。

それでは「音楽」について、採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 音楽は、教出、教芸の 2 社です。報告書 11 ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

教出は、教育基本法第 2 条 5 号に関連し、我が国の伝統音楽や郷土で育まれてきた文化を、現代の児童が興味をもって理解し親しめるよう、豊富な写真や動画、生活に密着した資料などで紹介されている。体を動かす活動や基本的技能の習熟に役立つ多彩な教材が、ワークシートや挿絵を交えてわかりやすく配置されている。他教科との関連を意識した教材やコラムが掲載されている。また、他学年との縦の活動も考慮した教材が扱われている。折り込みを使ったワイドな紙面で歌詞に忠実な美しい写真が掲載され、興味・関心を引く工夫がされている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教芸は、教育基本法第 2 条 1 号に関連し、音楽科の学習を通して、幅広い知識と教養が身に付けられるように、児童に身近なテーマで、音楽にまつわる特集やコラムが設けられている。協働的な創作活動が充実しており、児童同士が対話しながら取り組めるよう工夫がなされている。道徳や人権を意識した教材を取り入れ、学んだことが自分の人生や社会に生かせるよう工夫されている。写真中の歌詞は背景を白にしたり配色を工夫したりすることで読みやすくするなど、ユニバーサルデザインが意識されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 2 社ということで報告がありました。それでは、教育委員さん方からご質問等ありましたらお願いいたします。

○武井委員 題材に関連した神奈川県に関する主な文章や写真などについて説明などあり

ましたら、よろしくお願ひいたします。

○奥泉委員長 この点について委員会では調査員から説明がありませんでしたので、事務局より回答をお願いします。

○教育支援課長 神奈川県に関連した題材についてでございますが、県の調査研究結果によりますと、教出は鎌倉市など3か所、教芸は厚木市など2か所あったと報告されております。

○海野委員 各社の楽曲の特徴について採択資料作成委員会の説明はありましたか。

○奥泉委員長 教出は児童が親しみやすい楽曲が多く、教芸は専門的に学習が進められる楽曲が多いという説明がありました。

○伊藤教育長 採択資料作成委員会の報告の中で少し興味深いですが、確認すると、教出は児童が親しみやすい楽曲が多くて、教芸は専門的学習が進められる楽曲が多いということではよろしいですか。

○奥泉委員長 そのとおりでございます。

○伊藤教育長 ほかに採択資料作成委員会の報告について質問はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、採択に向けての協議を進めていきたいと思ひます。皆さんは音楽は好きですか。

○武井委員 好きですよ。

○濱田委員 好きです。

○伊藤教育長 それでは、意見等ありましたらお願ひいたします。

○濱田委員 教育芸術社について、表現力を育むという点から、楽器の扱い方について分かりやすいなと思ひました。また、まだ音符までいかないような児童に対しても、ニュースから演奏ができるような工夫が見られるという特徴があるかなと思ひました。

○伊藤教育長 様々な器楽演奏とかなんかについて教芸は本当に丁寧に説明してあるということでございますね。

○武井委員 教育出版なのですが、歌の数が多くて、日本の音楽を多く取り上げていると感じました。また、見開きの写真がよくて、子どもたちに楽曲のイメージが伝わりやすいと感じたところでは。

○伊藤教育長 今、開いていますが、私は3年生を見ると「海」「海は広いな」というのを見ると、本当に写真のイメージが海そのものなので、こういう中に海が載っていて、4

年生は「富士山」の絵がすごく出ていて、子どもたちがイメージしながら歌うことができるのだろう。そういう工夫があるということですね。

○平井委員 教出の教科書なのですが、私は現在使用している教科書と見比べてみました。相当見直しをして、シンプルになっていると思います。扱いの順序を変えたり、楽譜と歌詞のページを分けて見開きにしたりして、非常に子どもたちが分かりやすくなってきたなと思います。特に1年生は身体表現と結びつけて、幼児期から体全体で音楽を楽しむ。そのようなつながりになっていることは、子どもたちにとって音楽を楽しむという点では相当工夫されている構成だなと思います。

鍵盤ハーモニカやリコーダーの指導については、両社がとても多くのページを取っています。七、八ページ取っているかなと思いますが、指導に当たっては教芸のほうが丁寧な指導ができるような紙面づくりができているかなと思います。今までに比べて教出は、先ほども出されていたように歌の数を相当多く取っていますし、ショートタイムラーニングという形で外国語に親しむという。教芸も取っていますが、そういう部分で幅広く音楽を楽しむという構成をしていて、私は教出が良いかなと思います。

○伊藤教育長 2社ですので、どちらかということなのですが、まず表紙を見ると、教出の教科書のほうが、言葉は変ですけども、メルヘンチックな表紙になっていて、楽しそうかなと思ったりもしている。だから、私、最初に教育委員さん方に音楽は好きですかと逆に聞いたのですが、音程がうまく取れたか、取れなかったかを教員が評価することによって嫌いになる子も中にはいるかもしれない。でも、もともとは楽しい教科で、それを小学校のうちに本当に楽しいままでいけるかどうか。例えば1・2年生で鍵盤ハーモニカをやると、その技量によって嫌いになっていたり、3年生から笛が導入されると、うまくその指遣いできないことで嫌いになる。でも、音楽自体は楽しいのだけれどもということがあるので、そういう意味でいうと、私の観点で言うと、どちらの教科書が子どもたちは楽しいかな、どちらの教科書を使ったほうが子どもたちは楽しいかな。だから、先ほど平井委員が言うように、楽曲のこととかなんかを含めて、私自身はそのように判断していきたいなと思って、私の中では判断できているところがございます。時間はもう少しありますので、教育委員さん方も見ていただいて、最終の判断を下したいと思いますので、よろしくをお願いします。

2つになると、逆に難しいなと思って、先程、楽屋裏でと言ったら言葉は変ですが、奥泉委員長から少し話を聞いたのですが、教科書を出してもらって、学校を回覧したときに

現場の教員たちが何を言ったかというところ、この単元はこの教科書が良い、この単元はこの教科書が良いと、みんな教科書のいいところ取りをして1つにしていけるとすごく良いかなと。だから、音楽も、教出のよさと教芸のよさがうまく重なり合うと良いかなというような感じになりますね。どれがいいかという選択よりも、2つ合わせて、いいところ取りの教科書をつくったら良いのではないかと。現実には無理ですが、教員たちは、算数だったら、この単元は東書だけれども、この単元は啓林館でいいのではないかとというように思うぐらいの良さがあるということで、そういう意味で1つに決めるというのは難しいところなのかなと思います、決めます。

それでは、採決してもよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(教出5票、教芸0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました教出を採択することに決定します。

以上をもちまして「音楽」の採択の審議を終了いたします。

続いて、小学校教科用図書「図画工作」の審議に入ります。

それでは「図画工作」も2社になりますが、採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 図画工作は、開隆堂、日文の2社です。報告書12ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

開隆堂は教育基本法第2条の内容に関連して、教科書の巻頭に職業及び生活との関連を重視し、多様な人々が造形にかかわっている姿が取り上げられた構成となっている。また、友達と協力して表現する活動では、互いのよさを感じ合える題材が掲載されている。各題材は2ページ見開きで構成され、必要な情報がページの上下にまとめてあり、学習の流れが分かりやすくなっている。文章の表記については、意味のまとまりごとに改行位置を工夫したり、掲載されている作品に番号が付いていたり、誰にでも分かりやすい工夫がされている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

日文は、教育基本法第2条の内容に関連して、『材料と用具のひきだし』に材料や用具の使い方を含む幅広い知識に加えて、日本文化や日用品との関わりが掲載されている。学習指導要領に関連して、表現と鑑賞を往還しながら学習できるように題材と鑑賞のページ

が連続した構成になっている。『材料と用具のひきだし』では、発達段階に応じて、材料や用具の基本的な使い方が誰にでも分かりやすく示されている。『図工のみかた』では、児童の発想や表現のヒントになる投げかけが、写真やイラストで分かりやすく掲載されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、委員の皆様方から、採択資料作成委員会の報告についての質問があればお願いいたします。

○平井委員 採択資料作成委員会では伝統や文化に関する内容について説明がありましたか。

○奥泉委員長 委員会では調査員からの説明はありませんでしたので、事務局から回答をお願いします。

○教育支援課長 県の調査研究の結果によりますと、それぞれの発行者ともに「日本各地の工芸品、文化財」、さらに「受け継がれてきた形や色など」が掲載されている。「諸外国の児童や作家の作品など」が掲載されているという報告がございました。

○武井委員 日文の「図工のみかた」というのがありますが、児童の発想や表現のヒントになる投げかけがあると説明があったのですけれども、学年の対象というものはあるのでしょうか。

○奥泉委員長 日文の「図工のみかた」については、全学年を対象に児童の発想や表現のヒントになる内容がございます。

○伊藤教育長 全学年ということでございます。

○海野委員 開隆堂の説明に「友達と協力して表現する活動」とか「互いのよさを感じ合える題材」とありますが、具体的にはどういう題材でしょうか。

○奥泉委員長 採択資料作成委員会では、この点、協議されておりませんので、この点についても事務局から回答をお願いいたします。

○教育支援課長 例えば5・6年生の上にありますビーだま大冒険！という題材が該当するかと思われます。自分の作ったコースと友達が作ったコースをつないでみたり、一緒に協力して作ったりする様子などが写真でも示されていて、互いのよさを感じ合えるような題材として設定してございます。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、協議を進めるということによろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それではまた、皆さん、教科書を見ていただいて、2社ですので、改めて確認してください。

それでは、委員から意見がありましたらお願いします。

○濱田委員 図画工作という教科の中でいろいろと道具を使った作業があるかと思うのです。そういうところで初めてそういうものを使う可能性もありますので、安全面に対して低学年の頃からきちんと、例を言えばカッターナイフの使い方とか、そういうところがきちんと細かく掲載されているので非常に安心して見ていられました。ありがとうございます。

○伊藤教育長 小さいうちから自分で小刀を使って鉛筆も削っていた時代もありましたが、今の子どもたちはそういうものを扱う経験がない中で、教科の学習の中で扱うということなので、そういう安全指導がしっかりなされているのが安心したということですね。

○海野委員 開隆堂ですが、教科書の内容がまるで小さな美術館のようになっていて、作品のクオリティーが高いと感じました。そのため、児童も作品をつくってみたいという意欲を高めることができるのではないかなと思います。

○伊藤教育長 小さな美術館というのはどういう状況なのかな。美術作品なども載っているということですか。

○武井委員 載っていますね。

○伊藤教育長 分かりました。そういうページですね。武井委員のそのページもそうですね。

○平井委員 私は開隆堂の教科書に引きつけられたのですね。1・2年生の教科書です。同じ単元で、一部にも載っているのですが、ギョッとしたいわたしの「おともだち」というところがあるのですが、これを見ると、紙で作っているのですが、抱き締めてあげたくて、常にそばに置いておきたいという思いを子どもたちにさせる作品づくりと子どもたち自身に作りたいという思いにさせる、子どもたちの笑顔と作品が非常に印象に残りました。そういう点からも、やはり子どもたちが愛着を持って学習の流れに沿って、物を作り上げていくという、まず1つは、教科書の構成がすばらしいなと思いました。そして、学習意欲をかき立てる構成もすばらしいなと思いました。

高学年あたりでは、他教科との教科横断という部分で地球まるごと宝箱などというよう

に、外に出たのいろいろな造形づくりというものが入っているのですね。そういう点からも、やはり子どもたちがわくわくドキドキしながら図工の学びに向かう。時間数が少ないだけに、短い時間の中で子どもに満足させてあげたいという思いが教師にはありますので、そういう部分では、子どもたちの心に火をつける、良いものづくりになっているのではないかなと思います。

○伊藤教育長 平井委員の開隆堂がいいという意見でございます。

ぱっと見て、両方の教科書とも子どもたちの作品が表紙になっているということで、すごく良いイメージがある。ただ、違いがあるのは、教科書の題名に、単純に「図画工作」と書いてあるものと、それぞれに「みつけたよ」とか、「わくわくするね」「力を合わせて」「つながる思い」という題名のような感じのタイトルの教科書と、その辺でまた少し思いが違うのかなと私は思ったりするところでございます。

ちなみに、皆さん、図工は好きでしたか。

○武井委員 すごく好きでした。

○海野委員 大好きでした。

○伊藤教育長 図工の嫌いな子はどういうことかという、1年生のときにお花の絵を描いたら、こんな花は存在しないと教師が一言言って全てが終わるという、よくある話ですが、きちんと形や色が合っていないといけない。昔の教員というか、我々世代は写実的なことがうまいというように考えたので、表現を豊かにすること自体の評価はあまりなかった時代に、図工は嫌いなのですが、絵を描くのは好きで、いたずら描きをする子はたくさんいたなと私自身は思っているところでございます。そういう意味で子どもたちが、音楽と同じで楽しいと思える教科書はどちらか、決めていきたいなと思いますが、皆さんはそれぞれにどうでしょうか。

○武井委員 個人的な意見なのですが、僕たちの時代より、はるかに芸術性が上がったというか、クオリティーが上がったというか、使う材料によって、筆もそうですが、目標物となる題材のクオリティーが上がって、芸術性が上がったというように感じ取りました。多分両社とも子どもたちの知的好奇心をどうかき立てるか、最初の1年生からどのように興味を持たせるのかなというのは、いろいろなアプローチをしてきているなと感じたところでは。

○伊藤教育長 武井委員は教科書採択に関わってよかったですね。

○武井委員 そうですね。こんなに進化しているとは思わなかったです。

○伊藤教育長 それでは、採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 小学校教科用図書「図画工作」の採決をいたします。教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(開隆堂5票、日文0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました開隆堂を採択することに決定します。

「図画工作」の採択の審議を終了いたします。

続いて、小学校教科用図書「家庭」の審議に入ります。準備をお願いします。

それでは「家庭」の採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 家庭は、東書、開隆堂の2社です。報告書13ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、学習指導要領を基に、3ステップ『1見つめよう』『2計画しよう・実践しよう』『3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう』と段階をふんで問題解決的な学習が展開できるようになっている。見開きで『成長の記録』を書くページがあり、ふりかえりに活用することができるように工夫されている。目次は5年生、6年生と学習の流れが分かるようになっていて見通しがもてる。5年生で8大題材、6年生で7大題材を扱う構成になっており、基礎・基本から応用へと系統的に配列されていることでより学習の充実を図ることができるようになっている。デジタルコンテンツが充実しており、調べ学習に最適な『食品ずかん』等を使い、発展的な学習を行うこともできる。また左利きの基礎技能動画があり、確実に基礎・基本をおさえることができるようになっている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

開隆堂は、学習指導要領を基に、5年生で基礎・基本、6年生で発展的な学習を段階的に扱っており、2年間の系統性を意識したつくりになっている。また『1気づく・見つける』『2わかる・できる』『3生かす・深める』の3ステップで問題解決学習ができるようになっている。かながわ教育ビジョンにある「思いやる力」に関連し、外国の児童や車いすに乗った児童のキャラクターと写真を意図的に使用し、多様性が意識されている。見開きのページで左から右へと手順が書かれている構成が統一されていて、調理やミシン等の学習の流れが分かりやすく構成されている。単元の初めに「なぜ～するのだろうか」とあり、課題設定しやすく目的意識をもって学習に取り組むことができるようになっている。学校

からは、「日常生活に必要となる基礎的な知識及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げるなど工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。以上です。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告について、ご質問のある方、お願いいたします。

○海野委員 開隆堂では見開きのページがありますが、これについて採択資料作成委員会で説明がありましたか。

○奥泉委員長 開隆堂では、見開きのページで、左から右へと手順の流れが見られるように工夫されているという説明がありました。例えばミシンや調理等の学習が該当します。

○伊藤教育長 今、確認していますね。これもそうですね、製作しましょうということで。どちらも子どもたちの問題解決の展開にあるようなステップを設けて進められるような形になっているということでございます。見ていると、本当に家庭生活の基本的なこと。教科書の中でこれまでと違うのは、家庭と地域のつながりとか、家庭の中の自分。地域の中の自分のつながりということが家庭科の学習の中で取り上げられるというのがこれまでと違う点かなと思って見ているところがございますが、では、質問はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、家庭科の採択に向けての協議を進めたいと思いますが、また2社ということですので、改めてよく確認していただいて、ご意見もあつたらお願いいたします。

○武井委員 家庭科について、エプロンを作ったりとか調理実習をして学ぶというイメージが強いのですが、今回の教科書から、SDGsについても学ぶ機会が多くなっているなというところを一番感じました。

○伊藤教育長 そうですね。これからの子どもたち、我々もそうなのですが、地球規模のSDGsに対応していくということは生活の1つの大きな課題ですものね。

○平井委員 この単元はこちらがいい、この単元はこちらがいいというので、教科書会社をつなぎ合わせられたら本当にすばらしいのだろうなと思うのですが、それぞれ特徴ある中で教科書づくりがされていると思います。

ちょっと目についたのは、私は開隆堂のごはんを炊いてみるというところがあるんですね。文化鍋とガラス鍋と2つあるのですが、ご飯が炊ける様子が見えるものと見えないものという形になっているんですね。家庭科は、5年生、6年生ですよ。5年生で取り上げたときにはガラス鍋を使えるだろうしという感じで、いろいろな応用ができるという点

では、両方並べてくださっているのはいいのかなと思います。

欄外に豆知識とあるのですが、私にはなかなか良いかなと思うのですね。本当に小さな文字で書いてあるのですが、一言の豆知識なので、ちょっと知らないようなことが幾つかずっと書かれています。これに興味を持てば、子どもたちは目を通していくのではないかなと思っています。5年、6年の学習ですから、5年生で基礎基本を、6年生でその応用的なものになっていくのですが、教科書会社のつくりによると、地域や学校行事等に合わせて教材制作ができるような仕組みにはなっているというところも、家庭科ではいいところかなと思います。

1つ新しいなと思ったのが、どちらも教科書も取り上げていると思うのですが、東京書籍でとても細かく取り上げています。それはローリングストックというもので、東書では自然災害を知り、自然災害に備えるということで取り上げておまして、調理実習も入れています。これは今までにないところで、この社会状況の中で、子どもたちを含めて、家族、社会が生活していくには、ここはすごく大きいかなと思います。缶詰等を使って簡単に食事ができる。そういうものを子どもたちは調理実習を通して身につけていかなければいけないのではないかなと思いますので、今回取り上げてくださったことはとても良かったなと思います。

**○伊藤教育長** 開隆堂はほとんどのページに豆知識が載っているのですよね。子どもたちって不思議で、そこを見て、そこだけ覚えている子どももいて、子どもたちにとっては楽しいのだろうな。東京書籍もメモという形で欄外にそういうコラムが入っているのですが、開隆堂の豆知識は本当に数が多いなと感じました。あとはローリングストックということで、何らかの災害に遭ったときにあるもので、ほとんど缶詰とか、そういうストックできるようなもので料理を作るということは、これからの調理実習の1つの形として本当に面白いなと思ったりもするところがございます。それが東書では扱われているということですね。そうやって考えると、結論からいうと、豆知識も、ローリングストックも、みんな入っている教科書だったら良かったのにねということですね。

**○濱田委員** 私も平井委員のお話の中で出てきた防災という観点で、開隆堂なのですが、後段のほうに家庭や地域の安全・防災という見開きのページがありまして、145ページなのですが、歴史の中でいろいろな災害を体験している我々ですけれども、現実にもこういう防災というのは、もう小学校の高学年ぐらいから、当然家庭教育の中で教えていることかもしれないませんが、やはりここで1つの防災意識として持たせるということが非常に大切に

はないかと思いました。先ほどのローリングストックと近いような話ですが、こちらは開隆堂でこういうページがあったということは大変良いことだなと思いました。

○伊藤教育長 先ほどページ指定、144 ページ、145 ページ、東京書籍では防災そのものについて触れる部分はあるけれども、このような見開きのページでは扱っていなかったということで、濱田委員からは先ほどの裁縫と調理だけではなくて、今後必要なこととして家庭科の教科書に取り上げたということは重要なことなのかなという意見で、開隆堂にはそのページが設定されているということでございます。こうやって振り返ると、社会状況の変化によって家庭科そのものは、基本的なものはあるのですが、その扱う内容が変化していくというか、子どもたちの未来を想像して、今ここで知識として身につけておくべきことを掲載していくのが教科書の1つの使命なのかなと感じたりもするところでございます。ほかにはいかがでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、東京書籍と開隆堂の2社ということで採決したいと思いますけれども、委員さん方、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、開隆堂5票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました開隆堂を採択することに決定します。

始まってから1時間20分ぐらい経過するところでございます。ここで1度休憩を入れるということでよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、再開につきましては、午後2時40分ということで、20分ほど休憩させてもらってよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 では、午後2時40分に審議再開ということで、暫時休憩いたします。

(休憩)

○伊藤教育長 それでは、休憩前に引き続き審議を継続いたします。

小学校教科用図書「保健」の審議に入ります。採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 保健は、東書、大日本、大修館、文教社、光文、学研の6社です。報告書14ページ、15ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、各項が、『ステップ1 気づく・見つける』→『ステップ2 調べる・解決する』→『ステップ3 深める・伝える』→『ステップ4 まとめる・生かす』で構成されている。児童の生活場면을想起させる写真やイラストを提示し、児童が身近な例から健康についての課題を見つけることができるように構成されている。学校からは、「文章表現や漢字・用語・記号・軽量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大日本は、小中連携を意識して、発展的な学習内容として中学校で学習する内容などを示され、中学校の保健体育を学習する際に、小学校で学習した内容が円滑につながるよう工夫がされている。外来語等はカタカナで表記し、漢字は原則的に、学習指導要領に示されている配当学年より1学年遅らせて使用している。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大修館は、1人1台の端末環境下での学習活動をサポートできるように二次元コードが随所に掲載され、動画やウェブサイト、シミュレーションなどで詳しく学ぶことができる工夫が図られている。学習指導要領の目標及び内容が漏れなく指導できるよう単元を配置し、1時間2ページを基本構成として教材の分量が適量になっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

文教社は、『もっと考えよう課』コーナーを設け、児童自身が学習により関心をもてるような情報が掲載されている。学習したこと、理解したことを踏まえ、児童同士で考え伝え合うことで、より自信をもって、これからの生活や学習に向き合えるように『みんなで宣言しよう！』という宣言を記入できるページが設定されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光文は、各単元の学習過程について『1 自分の生活を振り返る』『2 学習の課題をつかむ』『3 課題解決に向けて学習活動をする』『4 学習をまとめる』『5 自分の生活に生かす』で構成されている。他教科との関連をマークで示し、カリキュラムマネジメントの観点から教科横断的な指導に活用できるように配慮されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学研は、各項目に資料『ほけんのはこ』を設定し、幅広い知識を身につけ、思考・判断・表現する力を養うことができるようにされている。科学的な資料（『かがくの目』実験や拡大した写真などを中心とした資料）が設けられている。目に見えない事象を可視化することで、児童が科学的に理解・認識ができるように工夫されている。学校からは「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

○海野委員 採択資料作成委員会ではどんなことが話題になりましたでしょうか。

○奥泉委員長 採択資料作成委員会では、身体の成長について、教科書によって表記の仕方に違いがあることが話題になりました。

○伊藤教育長 身体の成長についての表記の仕方が教科書ごとに違いが見られるということですか。

○奥泉委員長 はい。

○伊藤教育長 海野委員はどのように違うかを聞きたいのでしょうか。ただ、これは、イラストで表現されているか、写真で表現されているか、会社ごとによって違いがあるということですね。

○奥泉委員長 違いがあります。表現の仕方がイラスト、写真等で違いがあるということです。

○濱田委員 東書の意見の中で、保健の教科書ですから、健康についていろいろ考えなければいけないところが多いと思うのですが、その中で児童の生活場面を想起させる写真やイラストを提示しているというような話があったのですが、この辺についてどのようなものなのか、教えていただければと思います。

○奥泉委員長 この点については採択資料作成委員会では詳しい説明がなかったので、事務局からご回答をお願いいたします。

○教育支援課長 例えば日頃の自分の生活習慣ですとか、健康面の課題のようなものを見つけたり、考えたりするきっかけになりやすいとか、考えやすいようなイラストや写真を活用するような構成になっているということでございます。

○伊藤教育長 事務局に聞きたいのですが、小学校の体育科の学習の中の保健の扱いということなのですが、保健は年間の授業時数ではどれぐらい扱うのですか。事務局の指導主

事の中で小学校の教員は手を挙げてください。

○指導主事 体育の中に保健は位置づけられておりますので、体育については1年生から4年生は、おおよそ105単位時間扱っている、5・6年生になると90単位時間ということでして、その中では実技に重きを置いていますので、学期末近くになると保健を慌ててやるような先生もいたりとか、実技を丁寧にやりたいという先生の意向もあるかと思いません。

○伊藤教育長 正直な回答をありがとうございます。中学校でいったら、雨が降ったら保健という時代があったというか、保健学習についてはそういう扱いをされていた。ただ、これが教科書として採択されるようになったときに、保健学習の重要性が改めて示されました。でも、各学校の状況を私も見ていると、やはり体育というと、子どもたちが外で体を動かしたり、体育館で運動することを欲する時間だと思って、だからこそ、座学を工夫しないと、つまらない勉強の時間のような感じで扱われると非常に残念。だから、教科書としてはそんなに厚くないのですが、これらの内容は各単元で必要になるのかなという意味であえて質問させていただきました。

ほかに報告について質問ある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択に向けての協議を進めていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

○武井委員 体のつくりについてはイラストで紹介するものとか、写真で伝えるものとか、発行者ごとに表現及び紹介の仕方が違うと感じ取りました。4年生から指導することを考えると、私としましては、伝えやすいものは写真で伝えて、イラストで伝えるものは、そういうもので伝えていくほうが良い形が取れるかなと感じ取りました。

○伊藤教育長 武井委員としては、写真で伝わりやすいものは写真で伝えるべきだし、イラストのほうがいいというものについてはイラストで伝えるべきだろうということで、それぞれの良さをうまく使ってほしいということですね。

○濱田委員 ほかの教科書でもあったのですが、教科書の表紙が気になって見てみましたが、体育科の中の保健体育という授業の中で、やはり元気な活動的な表紙にはなっているのですが、その中で東書の教科書は非常に多様性を意識している内容になっているんですね。車椅子の方がいたり、外国籍の方と思われる方が教科書に載っていらっしゃって、3・4年生と5・6年生でその方々が成長しているような教科書になっていましたので、

非常にいいところに目をつけた表紙になっているのではないかなと思いました。

○伊藤教育長 濱田委員から表紙の話が出ましたが、様々な職業の方もいらっしゃいますね。子どもたちの生活の中で、職業、教員のような方もいれば、お医者さんとか医療関係の職業、また、警察等の職業の方々、様々な職業の方も掲載されているということで、多様性について重視されたのではないかということでございます。

○平井委員 保健体育は年間 105 時間あたり取られていると思うんですね。そうすると、保健の学習は 1 時間単位で実施していくほかないかな。1 時間の中で子どもたちが学んでいくには、ある程度の手順と子どもたちが考える方向、内容が示されているものがあればいいのかなと思って見てきました。できるだけシンプルで、子どもたちの興味関心があって、話合いができるという点では、東書はステップ 1 から 4 までを示して、児童に分かりやすい、深い学びができるような教科書づくりをしているのではないかなと思いました。良いことの 1 つは紙面がすっきりしていること。このページで何を学んだらいいのかが示されていて、挿絵や図、表がきちんと出ていることです。そして、文言が必要最小限に収められているのも私は良いかなと思っています。表の中には文章が書いてありますけれども、運動、食事、睡眠が大切ですよという太文字で大切なところだけを書き込んでいます。子どもたちはそんなに文章を読むものではありませんし、話合いの中で進めていくと思いますので、このように最小限にとどめているのはとても効果的ではないかと思います。

○伊藤教育長 そういう意見でございますけれども、保健を教科書として扱うようになったときに、その前までは、学校ごとに違うのですが、保健の副読本がありました。その時代には、私の記憶だと、大修館とか、文教社とか、光文とか、学研のものを副読本として扱って、それを購入して体育の中でやっていました。そこで、教科書という中で、東書、今回ですと大日本のものが特に教科書として提示されているという形のものでございます。

様々今意見がありますが、1 点目は、先ほど武井委員からあったもので、写真とイラストということなので、写真で見やすいものについては写真で子どもたちに見せます。でも、ふだん人間が隠しているものと言ったら言葉が変ですけども、そういうものについては写真では出せませんので、それはやはりイラストできちんと伝えることが必要なのだろうかなと思っています。

あえて何時間ほどやるのですかと質問したのは、先ほどの平井委員の意見の中で、では、その時間の中で子どもたちが学びをうまく深めるような教科書はどれが一番適しているのか。ある意味では、情報量があることが 1 つの教科書の一番の使命というか、様々な情報

がいっぱい載っていることももちろん重要なのですが、この短い時間の中で学習をうまく的確に進めるにはどこがいいかなということが1つの観点なのかなと私自身は思っているところがございますが、6社ありますので、皆さんで目を通していただいているところがございます。

保健としては、性教育という観点をどう扱うかということが社会的にも課題になっているところがございますが、それ以外にも安全・安全な生活を子どもたちが送るとか、また、より豊かな生活をみんなで協力して送るということも大事だと思います。生涯にわたって自分が健康で暮らすためにはどんな生活をすべきかとか、そういうこともとても大事な要素になりますので、それらがうまくコンパクトに入っている教科書がいいのかなと思います。

○**教育支援課長** 先ほど保健の時間数についてお話が出ましたが、例えば、5年生、6年生の2学年うち16単位時間という規定がございますので、年間当たり8時間単位程度と指導要領には規定されています。

読み上げます。第3学年及び第4学年の保健に配当する授業時数は2学年間で8単位時間程度、また、第5学年、第6学年の保健に配当する授業時間は2学年間で16単位時間程度と記載されております。

○**伊藤教育長** 学習指導要領に示されているのですが、3・4年生では8単位、1年間で4時間、2年間で8時間でこれをやるのですね。そうすると、もっとシンプルな教科書でない駄目だなと思ったりもするところがございますが、教科書は読み物でもあるので、情報があつたりすると、子どもたちも時間が空いたときに目を通したりなんかします。

それでは、採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**伊藤教育長** それでは、採決いたします。教科書目録順に発行者を読み上げます。

(東書5票、大日本0票、大修館0票、文教社0票、光文0票、学研0票)

○**伊藤教育長** 以上の結果、最多の5票を得ました東書を採択することで決定します。

「保健」の採択の審議を終了します。

続いて、小学校教科用図書「英語」の審議に入ります。準備をお願いします。

採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いします。

○**奥泉委員長** 英語は、東書、開隆堂、三省堂、教出、光村、啓林館の6社でございます。報告書16、17ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は各 Unit の初めに自分の目標を設定し、自発的に学ぶことができるようになっていいる。見通しを持ってスモールステップで各活動に取り組むことができるよう工夫されている。また、各 Unit の『Over the Horizon』では、視野を世界へと広げることができるようになっていいる。『My Picture Dictionary』が大判化となり、単語を探しやすいように工夫されている。学校からは、「国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人のくらしや、歴史、文化、自然などが、児童の発達段階や興味・関心に即して取り上げるなど、工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

開隆堂は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るために、ペアやグループでの言語活動が多く設定されていたり、音声や映像のデジタルコンテンツが豊富に用意されたりしている。更に『CAN-DO チェック』で、単元ごとのゴールが一覧で確認でき、児童が1年間の見通しをもてるよう工夫がされている。児童の興味関心を高めるために、単元の学習内容と他教科等、今日的な教育課題との関連が表示されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

三省堂は、Unit ごとに『HOP』→『STEP』→『JUMP』で構成されており、発表に向けて学習に取り組み、自分の考えや気持ちを表現する力が身につくよう工夫されている。また、音声でインプットされた語彙表現をアウトプットした後に「読むこと」「書くこと」の活動に繋がられており、知識を身に付けやすい構成になっている。分量・装丁・表記等については、イラストや写真が多く、大判（A4判）が採用されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、「聞くこと」「話すこと」を中心に、段階的に「読むこと」「書くこと」に進むよう構成されている。また、無理なくコミュニケーションをとる力が身につくように単元の作りが工夫されている。内容と構成については他教科で学んだ物語や、日本の名所や名物が英語で紹介されており、他教科との関連が図られている。更に、シンプルな紙面構成と単元構成で、学習内容が分かりやすくなるように配慮されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、学習指導要領に関連して、コミュニケーションをとおして相手に配慮する態度が養えるよう構成されている。また、各 Unit において段階を踏んだ構成になっており、

基礎の習得から活用までの学習手順がわかりやすく工夫されている。車椅子バスケットボールの選手が登場人物の中におり、個人の価値を尊重し、誰もが参画できる社会をつくろうとする姿勢を養うことができるよう構成されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、チャンツが字幕付きで、音と文字を関連させて練習することができるように工夫され、言語活動に必要な表現を練習できる流れになっている。また、「聞く」「話す」を繰り返しながらスモールステップで積み上げていくことができるように構成されている。世界各地の小学生が話す英語を聞き、彼らの生活を知ることで、コミュニケーションに必要な見方・考え方を育てる工夫がされている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告について質問がある方、よろしくお願ひいたします。

○武井委員 採択資料作成委員会ではどのようなことが話題になったのか、教えていただきたいと思ひます。

○奥泉委員長 小学校から英語に触れる学習をすることで、中学校での学習に生かされているという話がありました。一方で、小学校は英語になれ親しむということが目的で、コミュニケーションを取るということが主であるが、中学校の内容である書く活動が多くなってきているという意見もありました。本来、日本語もそうですが、幼児期に言葉を聞いて覚えて、1年生になると読み書きを始めます。英語の学習についてもこのような流れが必要ではないかということが話題になりました。

○伊藤教育長 まず、覚えて、話せるようになって、日本語も、小学校に入ってから、結構しゃべれるようになってから文字を書けるように学習するという段階になっているということでございます。

○平井委員 小中学校の円滑な接続という点で調査員からの説明はありましたか。

○奥泉委員長 この点については調査員からの説明はなかったもので、事務局から回答をお願ひいたします。

○教育支援課長 県の調査研究結果では、各発行者ともに6年生の学習内容の中で、中学校に入ってからやりたいことですか、中学校に入ってから自己紹介など、中学校への接続

を意識したような学習活動が設定されているという報告がございました。

○濱田委員 開隆堂の説明の中で「CAN-DO チェック」とあるのですが、これについて調査員から具体的な説明とかがありましたら教えてください。

○奥泉委員長 この点についても調査員からの説明は受けておりませんので、事務局より回答をお願いいたします。

○教育支援課長 例えば誕生日についてのやり取りなど、場面ごとの英語表現について、聞いて分かったとか、伝え合うことができたなど振り返りができるようになっている。そういったことを各自がチェックできるようなリストというか、一覧表のようなページで構成されているというところがございます。

○伊藤教育長 ほかにご質問はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択に向けての協議を進めますが、その前に教科書をずっと見ていただいて、実を言うとこの中で中学校が現在使っているのが開隆堂の「Sunshine」というものです。だから、表題に「Junior Sunshine」ということで、中学校の教科書をつくって、これまでもそうでした。あとは皆さんの記憶で「CROWN」という教科書も聞き覚えがあると思います。皆さんも使っていましたので、これは三省堂がつくっているものがございます。そういう現状の中学校の教科書を作成している教科書会社が小学校の教科書も作成している状況もあります。ほかは私が知らないだけかもしれませんが、英語が教科化された中で教科書ということで、様々な教科書が今、出されているところがございます。

そういう意味で、事務局の麻生教育支援課長は中学校の英語の教員ですよね。

○教育支援課長 そうです。

○伊藤教育長 それでは、事務局から、中学校英語の教員として英語教育をずっと進めてきたのですけれども、そういう意味で小学校の英語の教科書についてのご自身の思いや考えがあったら、参考にお伝えいただけますか。

○教育支援課長 小学校に英語が導入されて、受け取る中学校側の教員としては、特にコミュニケーション、英語になれ親しむという部分においては、本当に小学校の先生方、本来ご専門でない担任の先生を中心に外国語指導助手、ALTと呼ばれていますが、助手の先生の力を借りながら、児童生徒を育てていただいていると思っています。先ほど接続という話がありましたけれども、小学校でも書くことに関する指導も始まっておりますので、中学校はどちらかというところ書くことが中心になっていくような授業展開とかが目標になっ

てくるわけですがけれども、そういった部分をうまくバランスを取りながら、小中の英語・外国語活動につながって行って、子どもたちにとって、より将来、活用できるような英語の力をつけてほしいなと願っているところでございます。

○伊藤教育長 先ほどは日野指導主事に聞いたのですが、小学校の佐藤指導主事は教科として英語の授業を経験したことはありますか。

○指導主事 あります。

○伊藤教育長 では、今、3・4年生は外国語活動という時間があって、5・6年生になったら教科化されるということなのですが、小学校の教員として英語科について自分の思いや考えがあったら、参考にいたしますのでお伝えください。

○指導主事 外国語科及び外国語活動というところで、海老名市では1年生から外国語活動に取り組んでおります。私も小学校で教えていて、子どもたちに、英語は言語なので、コミュニケーションツールですので、言葉を使うことによって自分の価値観や世界観が広がるわくわく感や面白さを子どもたちが体験的に学べる授業であるといいのかなと思えます。小学校ではそんなところを大事に、だからこそ、読み書きになれ親しんで、話す、聞くがメインで、コミュニケーションをする楽しさを伝えていけたらいいのかなと思っていました。そういう意味では、小学校英語は目的、場面、状況というのがキーワードとして大事にされていますので、子どもたちがその目的、場面、状況というところに必然性を感じて、英語を使うような学習ができる教科書であるといいなと思って授業をしておりました。

○濱田委員 どのくらいやるのですか。

○指導主事 海老名市では、低学年、1・2年生の外国語活動は年間10時間、中学年、3・4年生の外国語活動は年間35時間、5・6年生になると教科として年間70時間、それに加えてイングリッシュデーを行っております。

○伊藤教育長 外国語活動は、年間35時間で年間の計画を立てていますので週1回、5・6年生になると教科ということで、週2回程度授業は行われているということでございます。皆さんも中学校、高校、その後と英語を学習しましたよね。しゃべれる人はいますか。私も含めてうまくしゃべれない。もちろんその場にいたら、単語をつないで何とかコミュニケーションは取りますけれども、そういう意味でいうと、では、今までの英語学習は何だったのかということになってしまう。そうすると、中学校に入って書き方を強制されて覚えて、例えばそれが受験のツールとなった時点で外国語に拒否反応を起こす子ど

もたちをかなりつくったのかなという感じがします。そういう教育課程の中でこれまで行われてきたものを改善するという意味で、小学校3・4年生の外国語活動、5・6年生の教科化。不思議と日本以外の東南アジアの国々では、子どもたちは実を言うと英語を普通に話せます。そういう中で、国際的な交流という意味でいうと、日本人はこれまでの英語教育についてある程度見直しを図って進めないと、国際社会から取り残されるような状況があるのかなという中で、かなり文部科学省も力を入れた経過がございますが、そういう意味でいって、小学校での英語の教科活動を進めるにはこの教科書の中のどれがふさわしいかということが1つの判断の価値になるのかなと私は考えているところでございます。

では、委員さん方から、まず意見がありましたらお願いいたします。

○濱田委員 非常に多くの教科書が出ているので、どの発行者も発達段階を考慮して学習を進める内容となっていることがよく分かります。また、いろいろな工夫をされて、年間の見通しを持たせるような様々な手だてが工夫されているなということも理解できました。

○伊藤教育長 濱田委員からは、どこの教科書も非常に工夫されている、子どもたちが見通しを持って学習できるような教科書のつくりになっているということでございます。

○平井委員 啓林館や光村の教科書は、コミュニケーションに必要な学びの教材が工夫されていると思います。今言われている児童の主体的・対話的で深い学びにつながるのではないかなと思われま。文字の大きさ、アルファベットの大きさが私は少し気になるのですが、3・4年生あたりはできるだけ大きいほうがいいのかと思って見ていました。

○伊藤教育長 5・6年生で5年生あたりということですね。

○平井委員 会社として大きさは決めてあると思うのですが、できるだけ大きいほうが見やすいのかなと思って見ています。

○海野委員 先ほど平井委員からコミュニケーションという言葉も出てきたのですが、光村はコミュニケーションを図る基礎となる資質、能力を総合的に育成できるような工夫や配慮があります。また、コミュニケーションについては、相手意識を持つことを大切にしていることから、子どもたちの将来を考慮すると、より実用的な内容であるのではないかと思います。

○伊藤教育長 光村はコミュニケーションについての子どもたちへの指導の部分がある程度充実しているということで解釈してよろしいですか。

○海野委員 はい。

○伊藤教育長 教科書を並べて比べてみると、書く部分の内容を多く取り扱っている教科

書とあまり重視していない教科書がある。現状では教科化の授業を進めている中で、中学校の受け入れ側としては、もう少し文字が書けるような子どもたちになることをある意味望んでいるところがある。麻生教育支援課長、書くことについて、あなたの見識の中で何かコメントをいただくことはできますか。

○**教育支援課長** 書くといっても、何を書くかが非常に重要なところで、例えば自分の思いや考えを表現するとなると、それも立派なコミュニケーションツールの1つとなりますので、例えばメールなどの実践的なやり取りもありますので、そういった現代的な部分ともつなげつつ、書くことイコールコミュニケーションの障害となるのではなくて、それも1つのコミュニケーションツールとして考えていくような時代になるのかなと、個人的な意見ですが、考えております。

○**伊藤教育長** この場合、例えば英語を使って外国の方とコミュニケーションを図れるような子どもたちを育てるという意味で、どの教科書かということなのですが、実を言うと海老名市は、前回、教科化になって教科書を採択するときに光村を採択したのですよ。ほかの会社からもいい教科書はたくさん出ていたのですが、海老名市としてはこの教科化を前倒しという形で進めたのですよ。ですので、全体がスタートする前に海老名独自で教科化をスタートしたのですよ。そのときは文部科学省から出された資料をそのまま使って指導したのです。前回の採択では、これらの教科書の中で、そのままできるだけ海老名の教科指導を継続できるものはどれが一番いいのかなということ、少しみんなで研究したりすることがあって、その中で、開隆堂の中身のものが一番前倒しで教科化を進めた内容をそのまま継続して、授業で使えるものであると判断したことを私は記憶しているのですが、そういうイメージで採択を行っている。一応4年間、ここでどのような形で教科書を見直すのかどうかということなのですが、私の個人的な意見としては、活用を図る中で、また見直しを図るのも1つの方法かなというのが私の考えであるのです。そういう前倒しでやっていた経緯があるので、その前倒しでやっていた学習内容をそのまま継続するにはどの教科書がいいかという視点で前回は採択したということですので、ここでそれを継続するのかどうかということが採択についての1つの視点かなと私自身は考えているところでございます。委員は委員で、いかがでしょうか。

○**平井委員** 英語の教科書は、使い始めて、まだ日が浅いですよね。前回採択という形で、ようやく子どもたちの中に教科書として浸透してきているのかな、学びの内容として浸透してきているのかなと思うのですね。ですから、ここで急に替えてしまう必要はまだない

のかなとは思いますが。

○伊藤教育長 こうやって見ていたら、東書の「NEW HORIZON」というのも中学校でありましたね。こうやって見ると、このまま「Here We Go!」でいくのかどうか、「BLUE SKY」にするのか、いろいろあるところがございますが、それでは採決にいきたいと思います。私の立場で私の意見をちょっと強めに言ってしまったので、皆さんは皆さんにご自身の考え方で結構でございますので、採決しても大丈夫でしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(東書0票、開隆堂0票、三省堂0票、教出0票、光村5票、啓林館0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました光村を採択することに決定いたします。「国語」光村、「英語」光村というのもいかなものかという感じはしないでもないですけれども、海老名市としては継続して光村の英語の教科書を活用して、子どもたちの指導を続けることに決定いたしましたので、よろしく願いいたします。

それでは、13種目の最後になります。小学校教科用図書「特別の教科 道徳」の審議に入ります。それでは、準備をお願いします。

「道徳」も6社となります。それでは、採択資料作成委員会からの報告を、奥泉委員長、お願いいたします。

○奥泉委員長 「特別の教科 道徳」は、東書、教出、光村、日文、光文、学研の6社でございます。報告書18、19ページをご覧ください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、かながわ教育ビジョンに示されている「人づくりの段階と目標」に関連して、全学年でいじめ問題に関わる教材が3つ用意されており、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。また、全学年で情報モラルに関する教材が用意されており、道徳的価値と関連させながら系統的に情報活用能力を身に付けられるように構成されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、児童の理解が深まる構成に関して、学習内容に関連する映像や写真等を見ることが出来る『まなびリンク』という二次元コードが掲載されている。また、主体的・対話的で深い学びに関して、教材名の下部に導入に関する発問が記載されており、児童におけ

る学びの視点が揃うよう配慮されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、学びの視点やめあてが示され、さらに問いが段階を追って構成されていて、児童が1時間の見通しをもって学ぶことができるように工夫されている。また、いじめ問題や情報モラル、環境問題等の現代的な課題について、「教材＋コラム」で構成したユニットで共感的に学べるように工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

日文は、別冊の道徳ノートがあり、心に残っていることを記述し自分の考えや行動を振り返る学習活動が設定されている。また、学期ごとの振り返りページもあり、学期始めからの自身の変容への気づきを促すことができる構成になっている。話し合いを行うことが効果的な教材の後には、『ぐっと深める』が掲載されており、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光文は、かながわ教育ビジョンに示された[思いやる力]について、複数の教材と関連づけて、いじめ・人権を考える学習活動がユニット『いじめを生まない心』で設定されている。また、多面的・多角的に考えを深めることができるよう、発達段階によって異なる思考ツールを示した『いろいろなやり方で考えてみよう』が掲載されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学研は、巻末にある『つなげよう ひろげよう』の中で、1年間の学びや自らの成長の振り返りを行い、課題や目標を見つける学習活動が設定されている。また、最重点テーマをいのちとし、3本のユニットで構成されている。議論のテーマ例を『深めよう・自分の進む道は自分で決める』で示すなど、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えられるように工夫している。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの報告に対しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○武井委員 いじめの内容についてなのですが、採択資料作成委員会ではどんなことが協議されていたかというのを教えていただければと思います。

○奥泉委員長 いじめの内容については各社ともに扱っているところではありますが、調査員からは時期を1年間の中で分散して取り扱っている教科書、短期集中的に集めて取り扱っている教科書等があるという話がありました。また、教材だけでなく、コラムと併せて指導を実施していくというような話もありました。

○伊藤教育長 扱いが各社によって違うということと、あとコラム等の活用もあるということでございます。

○平井委員 光文では「発達段階によって異なる思考ツールを示した『いろいろなやり方で考えてみよう』」が掲載されているということですが、具体的にはどのようなことが出たのですか。

○奥泉委員長 採択資料作成委員会では具体的には説明がありませんでしたので、事務局より回答をお願いいたします。

○教育支援課長 県の調査研究の結果によりますと、ただいまの「いろいろなやり方で考えてみよう」について「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることについて、言語活動の中で、考えをまとめたり、広げたりするための思考ツールを示した」という説明がされております。

○伊藤教育長 思考ツールがほかの方法として示されているということですか。

○事務局 そういうことでございます。

○伊藤教育長 教科書でいうと、今のは光文ですよ。光文の道徳でいうと…。

○平井委員 これですか。「いろいろなやり方で考えてみよう」というところ。

○伊藤教育長 何ページになりますか。

○平井委員 6ページ。

○伊藤教育長 光文の教科書でいうと、6ページ、7ページのあたりで、よく言う心情曲線とか、YチャートとXチャート、クラゲチャート、フィッシュボーンとか、そういう思考ツールという意味ですね。分かりました。

○海野委員 光村は「児童が1時間の見通しをもって学ぶことができるように工夫されている」と説明がありましたが、1年間の見通しという部分についてはどのような配慮があるのでしょうか。

○奥泉委員長 こちらの点についても採択資料作成委員会では話題になっておりませんので、事務局からの回答をお願いいたします。

○教育支援課長 全学年、教科書の冒頭に、道徳で学ぶ 20 のとびら、道徳道案内という

部分がありまして、これからの学習に興味関心が持てるようにするような配慮が見られます。また、これにより学びの全体像を見通せると考えられます。

○伊藤教育長 表記の仕方は学年によって違いますが、教科書ごとに1年間の見通しが立てられるような形で構成が進められているということで、よろしいですか。確認できましたか。

それでは、ほかに採択資料作成委員会の報告についての質問はありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採択に向けての協議を進めてまいりたいと思います。特別の教科 道徳の教科書ということで、子どもたちがこの教科書を使って道徳の学習をするというか、様々な道徳の価値について子どもたちが考える時間を設定することになりますが、皆さんから意見等ありましたらお願いいたします。

○武井委員 どの発行者も、いじめ防止の視点から各学年複数の教材が設定されていて、いじめ防止に関連する教材とコラムが掲載されています。また、どの発行者も取り上げ方とか記述の仕方を工夫しているなど感じました。

○伊藤教育長 いじめ問題に対する扱いということで、武井委員から意見がありました。

○海野委員 光村は興味関心を持てるように学校関連の内容が多く、児童のめあてに対して前向きに身近な問題として議論することができると思います。

○伊藤教育長 先ほどの見通しも含めて、そのように確認できたということですね。

○濱田委員 私も光村なのですが、児童が前向きに、そして見通しを持って学習に取り組めるような配慮が見られると思います。また、話し合い活動を充実させるために、発達段階に合わせた工夫がされています。話し合い活動を通して自分の考えを深めていくには必要な内容であると考えました。

○伊藤教育長 考え議論する道徳ということで、道徳的価値についてそれぞれが意見を持って、それをみんなで話し合っ、つくり上げていくという道徳のスタイルに対してということですね。

○平井委員 私は日文の教科書を興味深く読みました。特に1年生の最初のほうなのですね。幼児期からのつながりを多分考慮されたのだと思うのですが、挿絵を中心に、知覚を通して児童が思い思いの言葉で表現する、そして共通理解をしていくという教材の工夫がされているのは大変良いと思いました。

ただ、日文は道徳ノートがあるのですね。道徳ノートに沿って授業が進められてしまう

と、道徳は学級の実態把握をした上でいろいろなものを進めていきますので、そういう点からしたら、道徳ノートの活用というのはどうなのかなと思ってしまうところがあります。道徳ノートを使う際、どのように扱っていくのかというところが、私としては課題だなと思います。

○伊藤教育長 平井委員から日文の導入がいいと。ただ、道徳ノートがということで、実を言うと、前回の採択のときは、ほかの会社も結構ノートはついていたのですが、そのときはノートの項目によって学習の流れが決められてしまうところがあるので、それはいかなものかなというので、道徳ノートをついているものは外したという経緯が実はあるということで、そのことをおっしゃっておられたのかなと思っています。海老名市では、昨年も何校か、学校で道徳の研究をしています。奥泉委員長のところは道徳をやっていませんでしたか。

○奥泉委員長 私は、1年目にやりました。

○伊藤教育長 その中で、現状、各小中学校の校内研究で道徳をやっているのはどういうことかということ、教科書の教材は一応これを基本にしてやるのですが、それは教材だけ取り出した形です。それに対して、どのように子どもたちとそれをつくり上げていくか、それに近づけたり、子どもたちの考えを聞き出して議論するかということについては全然違う研究で進んでいるというのが実際なのです。だから、実を言うと、私にしてみれば、道徳の教科書なのですが、少し昔に戻って、副読本の時代の教材が並んでいるもののほうが実はいいのかなと思っています。それらの題材を、教科書としてシンプルに合ったもの学校の教員たちが、もちろんそれぞれの価値目標、学年の扱いは決まっていますが、それに対して教材をつくって、自分たちで授業を構成していく。平井委員からありました、子どもたちの実態に合わせて構成していくということが1つの教科書の形なのかな。ここまで道徳の教科書を各社丁寧に扱ってはいるのですが、子どもたちにとって一番大事なのは、やはり中身1つ1つの教材というか、文章かなと思っています。

私自身は前回のときにも光村を採択したと思うのですが、どうも国語っぽくて、ひょっとしたらの教員たちが国語の授業と間違えて指導してしまうのではないかと。読み取りなんかをしてもらっては困るかなと思っていて、実はその辺を危惧しているのです。私は私でいろいろな先生たちの意見を聞くと、そういう意味でいうと、今使っているのもいかなものかなという考えの方もいらっしゃるし、それを継続してほしいという考えの方もいらっしゃるというところですが、もっとシンプルに、本当にいい題材を並べて、道徳の

教科書として、どんな題材をそこに掲載するか、教科書作成の方々も研究していただいて、そういう題材集と言ったら言葉が変ですが、もちろん道徳的価値によるのですが、そういうものがつくるといいのかなと感じているところでございます。

子どもたちにとって週1時間、昔、私どもが小学校の教員をやっている頃は、これに力を入れることはあまりなかったのが正直なところですが、でも、今これは本当に大事な時間で、子どもたちも自分の意見が自由に言えたり、自分がいろいろなことを思って、それを言うことも問題ではない。昔のようにそれはおかしいですよなんて言われることは絶対になくて、みんなと話し合う中でそれを高めていくというもの。だから、いい題材を教科書の中で並べていってほしいなという気持ちがあるところでございます。

それでは、皆さん、道徳についていかがでしょうか。ほかに意見がある方がいらっしゃったらお願いいたします。

道徳も教科化になって、本当に指導内容が変わってきましたね。各学校、教員たちも真剣にと言うと言葉が変ですが、道徳の時間をとても大切にしようになったなど私は思っているところでございます。

それではよろしいですか。皆さんの中で決定しているでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、採決をいたします。

(東書1票、教出0票、光村3票、日文0票、光文1票、学研0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の3票を得ました光村を採択することに決定します。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 以上をもちまして「特別の教科 道徳」の採択についての審議を終了いたします。

ここまでで、1点目の令和6年度使用小学校教科用図書の採択についての審議を終了いたします。奥泉委員長におかれましては、ご報告、本当にありがとうございます。これからの審議については、採択資料作成委員会の協議の対象ではありませんけれども、引き続きご同席願いたいと思いますが、よろしいですか。

○奥泉委員長 はい。

○伊藤教育長 では引き続き、2点目の令和6年度使用中学校教科用図書の採択についての審議に入ります。審議に入る前に、事務局より、採択についての詳細をお願いします。

○教育支援課長 令和6年度使用中学校教科用図書採択についてご説明いたします。

教科用図書については、採択してから4年間使用することとなっておりますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、令和6年度に1年間使用する教科用図書を新たに採用することが規定されております。しかし、新たに文部科学大臣の検定を経た教科書がないことや、令和6年度に全種目の教科書を採択することを鑑み、別紙3の中学校用教科書目録の中から令和6年度採択において資料とした別紙5、令和3年度使用中学校用教科書、海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書により、新たに採択について議決を求めるものであります。

なお、今年度、中学校で使用した教科用図書は、別紙4、令和5年度使用、中学校教科用図書一覧にまとめてあります。

なお、議案書2ページに「令和2年度及び令和3年度に採択した」とございますが、中学校教科用図書の採択替えは、令和2年度に実施いたしました。そのうち社会（歴史的分野）については、1社、文部科学省の検定が通らず、採択替えの候補に挙がらなかったものがございました。この後、その1社に関しまして、改めて再申請がなされた結果、文部科学省の検定を受け、令和4年度から新たに発行されることとなりましたので、そちらを含めた形で社会の採択を令和3年度に改めてやり直した経過がございます。

結果といたしまして、本市では令和2年度に採択したものと同一の教科用図書を採択したことから、使用する期間は、他の種目と同様、令和3年度から4年間となるものでございます。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明を含めて、中学校中学校教科用図書について、何かご質問等ありましたらお願いいたします。

○武井委員 中学校から今の教科書を替えたいという意見はあるのかどうか、お伺いします。

○教育支援課長 そのような意見は聞いておりません。

○伊藤教育長 現在中学校で使っている教科書について、不都合があるので替えたいという意見はないということでございます。

ほかに意見等ありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは、中学校の教科書については、来年度が改めて採択替えの年度にはなっているのですが、ここで替えることによって、現状の中学校の現場から使用するの

に支障はないということでございますので、あえてここで検討して、採択替えをすることについては、学校の指導の中にある意味混乱を来すこともあり得ますので、教科書をここで替えるメリットは考えにくいということで判断したいと思えます。

そういう意味で、令和6年度においては、中学校においては、これまで使用してきた中学校教科用図書をもう1年間使用するという事について、皆さん、ご異議はございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、2点目の令和6年度使用中学校教科用図書については、別紙4の令和5年度使用、中学校教科用図書一覧のとおり継続することを採択いたします。

続きまして、審議事項3点目の令和6年度使用特別支援学級教科用図書の採択についての審議に入ります。

審議に入る前に、事務局より、採択についての詳細をお願いいたします。事務局、お願いします。

○教育支援課長 令和6年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてご説明いたします。

通常の小中学校の教科用図書は、採択地区ごとに1種目について1種類の図書が採択され、4年間にわたり使用することになっておりますが、特別支援学級教科用図書については、学校教育法附則第9条による教科用図書及び高等学校で使用する教科用図書についてによりこの限りではなく、1年間の採択期間で種目について複数の図書を採択することができます。

そこで、文部科学省著作教科書及び別紙6の令和6年度使用一般図書一覧から教科用図書として児童生徒に応じて選択するため、採択について議決を求めるものであります。

なお、別紙6、令和6年度使用一般図書一覧は令和5年6月時点のものでございます。

○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明を含め、何かご質問がございましたらお願いいたします。

○平井委員 特別支援学級の児童生徒は一般図書をどのくらい使用していますか。またあわせて、現在、過去の特別支援学級の児童生徒の一般図書の使用状況について教えていただきたいと思えます。

○教育支援課長 今年度の使用状況につきましては、小学校特別支援学級在籍児童198名

のうち48名が一般図書を使用しております。中学校特別支援学級在籍生徒74名のうち19名が一般図書を使用しております。

過去の使用状況としまして、令和元年度、前回採択時の数字を紹介いたします。令和元年度の使用状況については、小学校特別支援学級在籍児童146名のうち104名、中学校特別支援学級在籍生徒67名のうち16名が一般図書を使用しておりました。

○平井委員 年々一般図書の数も増えていきますので、特別支援学級担当の先生方には、児童生徒の特性や実態を十分に理解した上で、1人1人の児童が楽しい学びができるようにこの教科書を活用していただけたらいいなと思います。

○海野委員 一般図書を使用するに当たって、保護者と学校は連携を取って決めていますか。

○教育支援課長 支援級担任を中心とした学校側と保護者、お子さんのことを第一に考えて、十分に連携、相談して、話し合っただけで決めているところがございます。

○伊藤教育長 ほかには質問等よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご質問もないようですので、3点目の令和6年度使用特別支援学級教科用図書の採択について、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、3点目の令和6年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてを原案のとおり可決いたします。

.....

○伊藤教育長 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会7月定例会を閉会といたします。奥泉委員長におかれましては、お忙しい中、採択資料作成委員会委員長としてのご報告、本当にありがとうございます。皆様も、本当に長い時間、ご協力ありがとうございました。これをもちまして閉会といたします。